

研究所 所報

2022年2月 No.164

社会・地域の出来事や課題を
「自分事」として捉え、
自ら考え、判断し、行動する子どもを育てるために
～シティズンシップ教育実践集～



静岡県教職員組合立教育研究所
シティズンシップ教育研究委員会



研究所 HP

目 次

巻頭言 シティズンシップ教育をめぐる近年の動向……………	2
共同研究者 井柳 美紀	
これからのシティズンシップ教育の可能性……………	4
共同研究者 三浦 哲司	
実践1 自分事、みんな事と感じられる生活科の実践……………	6
小学校2年 生活科 水谷 仁直（函南町立東小学校）	
実践2 身近な問題に関心を寄せよう（多文化共生と環境について）……………	10
小学校2年・5年 学級活動／総合的な学習の時間	
塩澤 耕平（掛川市立千浜小学校）（袋井市立浅羽東小学校）	
実践3 自分の意見を持ち、発信すること……………	14
小学校3年 国語科 青谷 安芸（島田市立初倉小学校）	
実践4 地域の問題を『自分事』として考える……………	18
小学校4年 総合的な学習の時間	
小学校6年 社会科 杉山 弓月（御殿場市立富士岡小学校）	
実践5 シティズンシップ教育とこれからの多様性について……………	24
小学校4年 道徳科／総合的な学習の時間	
高橋 雄太（浜松市立佐鳴台小学校）	
実践6 湖西市を過ごしやすい町へ……………	28
小学校5年 国語科 生熊 佳奈（湖西市立岡崎小学校）	
実践7 地球に生きる「環境を守るためにできること」……………	32
小学校6年 理科 岩谷 佑紀（三島市立南小学校）	
2年間の研究をふり返って……………	36

シティズンシップ教育をめぐる近年の動向

井柳 美紀

共同研究者 静岡大学人文社会科学部教授



はじめに

シティズンシップ教育（Citizenship education）とは、直訳すれば市民性教育のことだが、もっと平たく言えば、「市民であること」のための教育だと言える。すなわち、将来、社会において市民として生きていく上で、必要な知識、技能、態度などを、学校教育の段階から身につけていく教育のことだと言ってもよいだろう。2015年の公職選挙法改正に伴う選挙権年齢引下げに伴い、主権者教育が開始されたが、この4月から高等学校では新設の必修科目「公共」が始まる。この科目は選挙権年齢の引下げや民法年齢の引下げに対応して、大人として生きていく資質をより実践的に養っていくことを目的としている。このような資質の育成は、むしろ小中学校段階など早い段階からの積み重ねの上に本来、実現可能なものだろう。主権者教育という名称であれ、シティズンシップ教育という名称であれ、あるいは公共という名称であれ、これからの日本の将来の社会の担い手をどのように育てていくかは、これからの日本の教育の重要な鍵となるだろう。

1 「選挙イヤー」を振り返って～若者の投票率の低下がなぜ問題か？～

2021年の静岡県は「選挙イヤー」とも呼べる年だった。特に注目選挙だったのは6月20日の川勝知事が圧勝で4選を果たした静岡県知事選、10月24日には「静岡ショック」とも言われ全国的に注目された参議院補欠選、さらに10月31日の衆院選などがあった。このところ選挙毎に注目される投票率については、静岡県知事選挙が52.93%、参院静岡選挙区補欠選挙が45.57%、衆院選が55.93%（投票率は小選挙区の数字）で、若者の投票率の低下がいつもながらの話題だった。

投票率について言えば、若者の投票率に限らず、全世代で投票率は低下傾向にある。もっともいつの時代も若者の投票率は戦後一貫して最も低いのだから、「今時の若者は」と若年層を批判するのは適当ではない。政治学では「加齢効果」という言葉があり、年代があがるにつれて、有権者は仕事や家庭などを通して政治との接点をもつ傾向が増え、政治に対する関心をもち、投票率があがるとされている。これは世界各国、概ね共通の傾向である。

しかし、それでも近年の若者の投票率の低下はこれまでの時代とは質的に異なる問題を抱えている。問題なのは、全体としての投票率が大幅に低下傾向にあるため、若者の投票率は、かつてのそれと比較しても顕著に低い傾向にあるという点であり、そして一番の問題は、少子高齢化が進行する中で、将来の財政や社会保障など将来世代に関わる課題が山積するにもかかわらず、若者の声が政治に反映されにくい状況が続くことである。若者の投票参加はもとより、政治参加は若者自身の将来にとって重要な課題というべきものだろう。

2 主権者教育の現状～政治・社会に関心をもつための教育とは？～

若者の投票率の低下が顕著な中で、主権者教育に対する期待は、メディアや世論の中では年々、

大きなものとなってきているように思われる。投票率を左右するのは教育のみならず、政治家、選挙制度、意識、教育など幾つかの要素があるが、教育に課せられた期待が大きいのも現状であろう。

今回の参院補選、衆院選でも県内主権者教育が様々なかたちで行われていた。その中で、静岡新聞やNHKのニュース「たっぷり静岡」でとりあげられた静岡中部のある県立高校の教育実践は非常に興味深いもので、私自身もこの授業実践にメディアに同行するかたちで見学に行った。

この県立高校では、参院補選の選挙期間中、実際の選挙を事例としてとり扱った模擬選挙の教育実践が行われていた。文科省と総務省が作成した高校向けの主権者教育の副教材にも実際の選挙を用いた模擬選挙が教育実践の事例として紹介されている。しかし、教育現場では、架空の選挙を題材としたものは多いようだが、実際の選挙となるとやはりハードルが高いようである。

というのも、実際の選挙を事例とした授業においては、公職選挙法に違反しないよう留意するなど、留意点が多々あるからだ。先にあげた副教材の教員用解説には、留意すべき点についての詳細が記されているが、不安が残ることも事実だろう。しかし、実際の選挙をモデルに授業ができれば、やはり生徒の関心は高まるだろう。難しい課題を抱えつつも、高等学校でこのようなリアルな政治を題材に感じ考える実践が実施されることは、若者が政治に関心をもつ上でやはり重要だと思われる。

3 4月開始する高校の新設必修科目「公共」の意義

シティズンシップ教育をめぐる現状で一番大きな変化は、この4月から高等学校で「公共」が始まることだが、学習指導要領の「公共」の冒頭には次のように、これからの厳しい時代を見据えて、社会を切り拓く資質をもった未来の大人たちの教育が必要だと書かれている。

「今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新など、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかに関わらず、すべての子どもたちやこれから誕生する子どもたちの生き方に影響するものとなってきている。(中略)

このことは、本来、公民科が大切にしてきたことであるものの、今回の改訂においては、我が国が厳しい挑戦の時代を迎える中で、これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を効果的に育むための中核を担う科目を、公民科において新設することとした。」

既にできあがった各教科書には実践的なとりくみが数々盛り込まれ、主権者教育もこの中に含まれている。ここで問われているのは、厳しい時代を迎える社会を担う未来の大人をどう育てていくかという視点である。少子高齢化、グローバル化、テクノロジーの進展、環境問題などによりこれまで以上に予測不能で激変するこれからの厳しい時代に、どう未来の大人たちが対応し幸せな人生を送っていけるのか。小中学校のシティズンシップ教育においても同様の問題意識が必要な時代になっているように思われる。

これからのシティズンシップ教育の可能性

三浦 哲司

共同研究者 名古屋市立大学人文社会学部准教授



1 小学生へのシティズンシップ教育

今期のシティズンシップ教育研究委員会は2020年度から2年間にわたり活動してきましたが、ちょうど新型コロナウイルス感染症の感染拡大時期と重複してしまいました。結果として、研究委員会自体をオンラインで開催することもありました。また、所員の先生方が対面参加されるなかでも、私個人が県をまたいだ移動が困難という事情もあって、静岡にうかがうことができない状況が続きました。何より、先生方は日々の教育現場において、児童・生徒の安全と健康を守るために、新型コロナウイルス感染症に向き合い、尽力されているなかで、この研究委員会に毎回、熱心に参加してくださっている点に、私は強く感銘を受けています。

さて、今期の所員の先生方は全員、小学校に勤務されており、小学生へのシティズンシップ教育のあり方が毎回の検討課題でした。私個人としては「小学生に対するアプローチには、どのようなものがあるのだろう」と、毎回の報告をとっても楽しみにしてきました。私は大学で、地方自治やまちづくりの問題について調査・研究・教育に従事しています。そうしたなかで、先生方の報告からは、児童一人一人が身近な地域の問題に向き合い、どういうとりくみが必要なのかを考える授業を展開されていることが把握できました。同時に、児童の「対話」を重視されている点も、印象的でした。先生と児童、または児童同士の対話を重ねるなかで、「私たち一人一人は何ができるだろう」を模索し、地域に出向いて調査をしたり、児童の学びの成果を丁寧にまとめたりしていました。

周知のとおり、本研究所ではシティズンシップ教育について「国や社会の出来事や問題を『自分事』として捉え、相手の立場や多様性を尊重しつつ、自ら考え、判断し、行動する力を育てる教育」と整理しています。先生方の教育実践は、まさにシティズンシップ教育そのものであると、あらためて認識しているしだいです。

2 研究委員会で感じたこと

これまで2年にわたり、今期のシティズンシップ教育研究委員会として活動してきたわけですが、先生方の実践報告を聞くなかで、私が主に感じたのは、以下の2点です。

第一は、「小学校の教育現場をめぐる状況が今、大きく変わろうとしている」という点です。その最たるものが、GIGAスクール構想に沿った、児童1人1台のタブレット端末の普及でしょう。今回の実践報告のなかでも、児童がロイロノートを活用して発表する様子を報告されている先生もいました。また、タブレット端末を活用して、地域の魅力をPRする動画の作成にとりくんだ実践報告もありました。たしかに、タブレット端末をどう使いこなすか、データの信ぴょう性をどう担保するのかなど、まだまだ課題は残っています。しかし、先生方の報告を聞くなかで、児童はタブレット端末を積極的に使いこなして調査や発表にとりくみ、また先生方も知らないような機能までも児童が率先して活用するといった実情をうかがいました。これ

は、児童一人一人の探求心が、これまでにはないかたちで促されているひとつのかたちといえるのではないのでしょうか。

私は今期の講話のなかで、地域経済分析システム RESAS についてお話をしました。もちろん、小学生が RESAS を使いこなすには、まだまだハードルがいくつも残っています。ただ将来的には小学校の教育現場でも、高学年を中心に RESAS が普及し、客観的なデータに裏付けられたまちづくり・地域づくりの発表が行われることを期待しています。

第二は、「そうした小学校の教育現場の変化があるからこそ、なおのこと本研究所で定義づけたシティズンシップ教育が重要となる」という点です。上記のとおり、この2年間は新型コロナウイルス感染症に向き合い、またタブレット端末の普及がありました。こうした変化については、教員側はもちろんですが、児童にもさまざまな影響を与えてきたでしょう。また、近年では Society5.0 やデジタルトランスフォーメーション（DX）がしばしば話題となりますが、今後も私たちが想像できないような劇的な変化が起こってくるといわれています。ここで重要なのは、過去に経験したことがない変化に対して、どう向き合っていくかです。本研究所のシティズンシップ教育が掲げる「自分事として捉える」「相手の立場や多様性を尊重する」「自ら考え判断し行動する」といった点は、こうした変化の時代だからこそ、いっそう求められる力といえるでしょう。上記のとおり、先生方お一人お一人の教育実践は、まさに本研究所のシティズンシップ教育の定義に沿う内容でした。そのため、私は先生方の報告を聞く過程で、変化の時代に適応できる力を育むという教育の可能性を見い出すことができました。

3 今後の展望

私は研究委員会の際にも、鈴木有紀『教えない授業－美術館発、「正解のない問い」に挑む力の育て方』（英治出版、2019年）を紹介しました。この本のなかには、児童に絵画を鑑賞させて感想をたずね、「どこからそう思ったの?」「そこからどう思ったの?」と問いかける重要性が書かれています。正解のない問いに向き合ううえでは、一人一人の発想や感性を引き出すことがますます重要になってきます。この本は、児童・生徒・学生と向き合うなかで、一方的に答えを教えるのではなく、対話を重ねるなかで、正解のない問いに対する一定の答えを引き出すことの意義を教えてください。

私も社会貢献の一環で、中学生や高校生に対して、模擬授業や出前授業を担当することがあります。そうしたときには、会場のスクリーンに何気ないまちの風景の写真を投影し、上記の「どこからそう思ったの?」「そこからどう思ったの?」と投げかけます。すると、生徒たちは何かを見つけ出そうと必死になり、写真をつぶさに見つめるようになります。なかには、私が事前に想定していなかったような、斬新な視点から発言してくれる生徒もおります。こうしたときには、中学生や高校生の無限の可能性を感じるしだいです。

今回、所員として活動された先生方には、ぜひとも今期の成果を今後も教育現場で活かしていただきたいと願っています。同時に、各単組・支部の活動でも共有され、本研究所のシティズンシップ教育の理念が少しでも広まっていくことを祈念しています。先生方ご自身もさまざまな変化に向き合わざるを得ないなかで、本研究所がめざすシティズンシップ教育は、先生と児童の双方にとっての基軸になると確信しています。

自分事、みんな事と感じられる生活科の実践

小学校 2 年生の子どもにとっては、自分の経験や体験から視野が広がっていきます。「自分」から「みんな」に視点を移し、自分たちが住んでいる学区や町の公共施設を探検することを通して、子どもたちが様々な人とかかわりながら生活していることを実感したり、町の良さに気づいて発信したりすることがシティズンシップのねらいに即しているのではないかと考えました。

◇ 授業の具体

生活科学習指導案

指導者 水谷 仁直（函南町立東小学校）

1 単元名 まちをたんけんしよう② ～みんなが使う施設を紹介しよう～

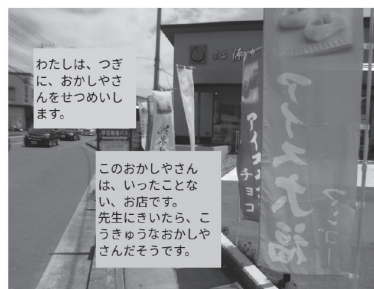
2 単元目標

- 身の回りにはみんなで使うものがあることや、それらを支えている人々がいることがわかる。また、より良い利用の仕方を自分事として理解する。 【知識及び技能】
- 公共物や公共施設の良さを感じたり、働きを捉えたりしながら、それらのより良い発信方法を考える。 【思考、判断、表現】
- 公共物や公共施設を大切にし、安全に気をつけて正しく利用しようとする。 【主体的にとりくむ態度】

3 単元計画

前単元	まちをたんけんしよう① ～東小の学区に何があるのだろう？～ ・自分の家の近所の自慢を紹介しあおう。 ・東小学校の周りをたんけんする計画を立てて、たんけんに出発しよう。 ・たんけんで見つけたこと、気づいたことをXチャートに分類してまとめよう。 ・今まで気づかなかったこと、たくさん発見したよ。 ・東小の周りには、家・お店・神社・寺・畑のほかに、みんなで使うところもあるね。公園もたくさんあったね。 ・Xチャートをもとに、学区の紹介スライドをロイロノートで作ろう。 ・今度は「みんなで使う」ところを調べてみたいな。
-----	--

あれは、なんのためにつくられたんだろう？なににやくだつんだろうな～？🌸これもきになるな～



せかいは、まだまだ知らないことばっかりだな～これからもっともっと、いろんなことをしりたいな～みんなでつかうところも気になるなあ😊

第 1 次

まちをたんけんしよう② ～みんなでつかうしせつ「柏谷公園」～

- 学区のたんけんを確認した「みんなで」使う施設の公園って、どんなものがあるの
だろう？
- みんなで話し合って、公園にはトイレ、広場、ベンチが必要だということがわかっ
たよ。子どもにとっては遊具があるといいんだね。暑いときは水道があると水も飲
めるね。
- 柏谷公園はぼくたち子どものほかに、どんな人が使っているのかな。
- ぼくたちのほかに、お父さんやお母さんかな。
- 柏谷公園はどんな人がどのように使っているのだろう？ X チャートに予想を立てて
みよう。
- X チャートからわかったこと以外にも柏谷公園のことをもっと知りたいな。
- 柏谷公園をたんけんしよう。
- 柏谷公園には小さい子連れて遊びに来るお母さんたちがいたよ。インタビューし
たよ。
- 柏谷公園を管理してくれるおじさんにたくさん話を聞いたよ。わたしたちの知らな
いところできれいにしてくれていたんだね。
- みんなが使うことができる柏谷公園のよさを広めたいな。パンフレットを作ろう。



みんなでつかう かし谷こうえん



第 2 次

～みんなでつかうしせつ「函南知恵の和館」～

- 知恵の和館について知っていることを出し合おう。
 - 知恵の和館の図書館って、学校の図書室とは違って、函南町の人が使うんだね。
 - 知恵の和館はどのような人がどのように使っているのだろう？ X チャートに予想を
立ててみよう。
 - X チャートからわかったこと以外にも知恵の和館のことをもっと知りたいな。
 - 知恵の和館をたんけんしよう。予想通り、お年寄りから大人、小さい子までいたよ。
 - 柏谷公園と同じように、みんなが使えるための工夫がたくさんあったね。
- 本 時
- たんけんしてわかったことを「～したい人にとって、どんなよさやくふうがあるか」
の視点で X チャートにまとめよう。
 - みんなが使うことができる知恵の和館のよさや工夫を広めたいな。パンフレットや
CM を作ろう。

4 本時の指導 (15 / 17)

(1) 本時の目標

知恵の和館を見学してわかったよさや工夫を利用者別に分類しまとめることを通して、より多くのよさや工夫があることを感じる。

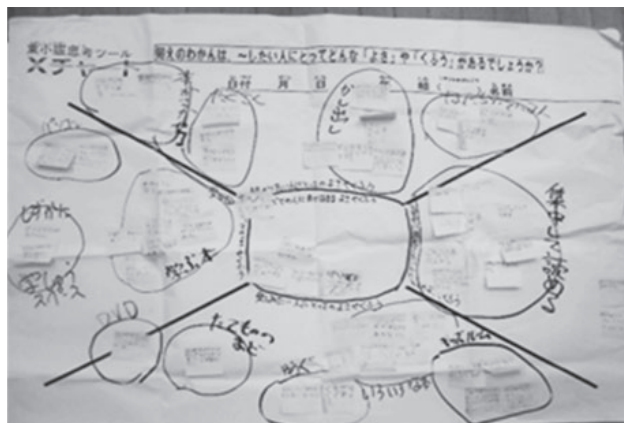
(2) 指導過程

段階	予想される子どもの活動と教員の働きかけ *支援 (評) 評価 ◇留意点 ☆研修との関わり						
つかむ	○一昨日知恵の和館に行ってきました。自分が調べたいことはわかりましたか。(一斉) ・予想通り、いっぱい本を読んでいる人がいました。 ・図書館の人から、本の借り方を聞きました。・DVDも借りられるなんて初めて知りました。 ・予想より、図書館って使いやすいよさや工夫があったね。 ・たくさんのよさや工夫をまとめてみたいな。						
見通す	知恵の和館は、～したい人にとってどんなよさや工夫があったでしょうか。 ○Xチャートにそれぞれの「～したい人」別に、調べてきたよさや工夫を書こう。(個別)						
追究する	<table border="1"> <tr> <td> 静かに読書したい人 ・ゆったりできる椅子がある。 ・館内の色々な場所に椅子がある。 ・静かな雰囲気。 ・足音が出ない。 ・本の検索ができる。 </td><td> 学びたい人 ・本がわかりやすく置いてある。 ・勉強できる机が多くある。(今はコロナで使えないけど) ・自習室がある。 ・係の人がわかりやすく本を教えてくれる。 </td></tr> <tr> <td> 本を借りたい人 ・コンピューターですぐに借りられる。 ・本の予約ができる。 ・図書カードがすぐに作れる。 ・わからないことは職員さんが教えてくれる。 </td><td> 楽しみたい人 ・1Fの奥で読み聞かせしてくれる。 ・1Fには子どもが楽しめるような掲示がある。 ・読んでもらいたい本がわかりやすいように置いてある。 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> 共通 ・エレベーターがあり、足の悪い人でも利用できる。 ・トイレが多くある。 ・利用したい人が誰でも入ることができる。 ・広くて使いやすい。 </td></tr> </table>	静かに読書したい人 ・ゆったりできる椅子がある。 ・館内の色々な場所に椅子がある。 ・静かな雰囲気。 ・足音が出ない。 ・本の検索ができる。	学びたい人 ・本がわかりやすく置いてある。 ・勉強できる机が多くある。(今はコロナで使えないけど) ・自習室がある。 ・係の人がわかりやすく本を教えてくれる。	本を借りたい人 ・コンピューターですぐに借りられる。 ・本の予約ができる。 ・図書カードがすぐに作れる。 ・わからないことは職員さんが教えてくれる。	楽しみたい人 ・1Fの奥で読み聞かせしてくれる。 ・1Fには子どもが楽しめるような掲示がある。 ・読んでもらいたい本がわかりやすいように置いてある。	共通 ・エレベーターがあり、足の悪い人でも利用できる。 ・トイレが多くある。 ・利用したい人が誰でも入ることができる。 ・広くて使いやすい。	
静かに読書したい人 ・ゆったりできる椅子がある。 ・館内の色々な場所に椅子がある。 ・静かな雰囲気。 ・足音が出ない。 ・本の検索ができる。	学びたい人 ・本がわかりやすく置いてある。 ・勉強できる机が多くある。(今はコロナで使えないけど) ・自習室がある。 ・係の人がわかりやすく本を教えてくれる。						
本を借りたい人 ・コンピューターですぐに借りられる。 ・本の予約ができる。 ・図書カードがすぐに作れる。 ・わからないことは職員さんが教えてくれる。	楽しみたい人 ・1Fの奥で読み聞かせしてくれる。 ・1Fには子どもが楽しめるような掲示がある。 ・読んでもらいたい本がわかりやすいように置いてある。						
共通 ・エレベーターがあり、足の悪い人でも利用できる。 ・トイレが多くある。 ・利用したい人が誰でも入ることができる。 ・広くて使いやすい。							
まとめる	◇「探検メモ」をもとに、Xチャートに書き込む。Xチャートの真ん中に円を描いておき、そこに共通するものを書くよう指示する。 ☆図書館のよさや工夫を子どもが利用者別にはっきり分類するためにXチャートを利用する。 ◇Xチャート記入後に、自分の考えを二つ選び、それを付箋に書き、黒板の拡大ワークシートに貼りにくるよう指示する。→資料① ○付箋を整理しながら、知恵の和館のよさや工夫についてまとめていこう。(一斉・協働) ◇大型テレビを用いて、子どもたちと相談しながら付箋を類別し、よさや工夫を焦点化する。→資料② ☆教員主導であるが、KJ法の素地を養う。 ・たくさんのよさや工夫が知恵の和館にあったね。 ・ぼくは「楽しみたい人へのよさや工夫」が思いつかなかったけれど、みんなの付箋を見てなるほどと思ったよ。 ◇類別後に、なるほどと思った考えを自分のXチャートに書き留めるよう指示する。 (評・思) 知恵の和館のより多くのよさや工夫を感じることができる。(Xチャート、発言) ・Xチャートにまとめたことをもとに、パンフレットやCMを作りたいな。→資料③④						

5 資料等



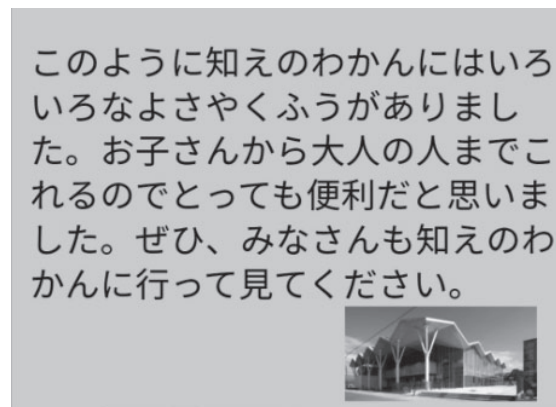
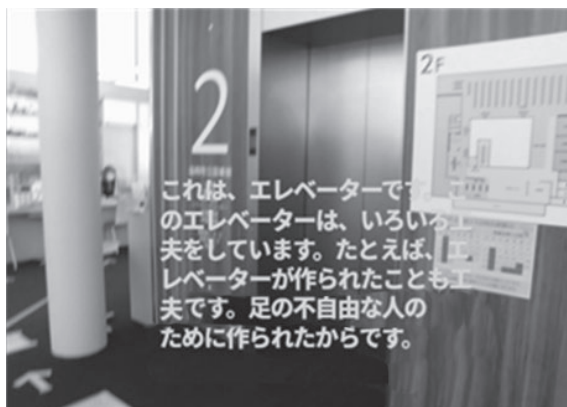
資料①考えを書いた付箋を貼る様子



資料②話し合って考えを焦点化したXチャート



資料③作成したパンフレット 知恵の和館の様々な工夫を見つけ、書きました。



資料④ロイロノートで作ったCM 写真を用いてよさを紹介しました。

◇ 2年間の研究をふり返って

2年間、生活科でシティズンシップの実践を重ねてきました。学習指導要領の生活科の目標に「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」とあるが、それを達成するためにシティズンシップの視点に沿って学習活動を行うと、より深い学びができると感じました。

この2年間でシティズンシップの視点に沿って学習した2年生が、将来社会で活躍できることを期待しています。

身近な問題に関心を寄せよう (多文化共生と環境について)

わたしたちの身の回りには、時代の変化とともに様々な社会問題が存在します。しかし、そのことに気づかずに日々を過ごしてしまっているのが現状です。子どもたちは身近に存在する問題について関心をもつことで、視野を広げることができ、問題をより「自分事」として考えることができるのではないかと思います。例えば、国籍や人種などについて理解を深めることは、これからの時代を生きていく子どもたちにとって、とても重要です。文化や価値観の違いから生じる問題について話し合い、自分たちの生活について振り返ることで、多様な文化を受け入れ、尊重し、共に生きていこうとする心を育てたいと考えました。

◇ 授業の具体 I

第 2 学年 学級活動 (多文化共生)

指導者 塩澤 耕平 (掛川市立千浜小学校)

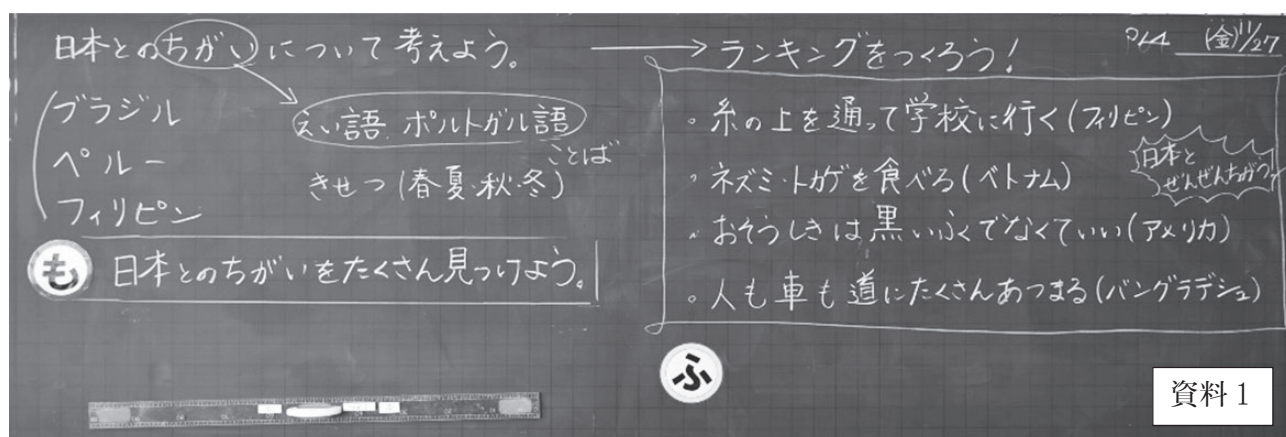
※ 2020 年度の実践

1 学習計画

時	学習活動	・指導上の留意点☆評価
1	- 他国の文化や生活様式に関する図書を読み、自分たちの生活との違いを見つける。 - 見つけた中から、特に驚いたことやみんなに知ってほしいことをランキングにする。 日本とのちがいをを見つけよう。	- 学校司書と連携し、関連する図書を選書しておく。 - 児童が見つけやすいようにねらいと関連するページに付箋を貼っておく。 ☆自分たちの生活と他国の生活、文化の同じところや違いに関心をもつことができたか。 資料 1
2	ゲストティーチャー（保護者）を招いて、生活の実態や日本での生活への悩みを聞き、自分たちにできることは何かを話し合う。 みんなにできることは何だろうか。 資料 2	- 保護者や家庭のプライバシーには十分に配慮する。 - 保護者には、日本へ来てよかったこと、地域や子どもたちの良いところを挙げていただき、自分たちの良さにも気づかせる。 ☆外国の方の悩みや生活の実態について考え、自分たちの生活と結びつけることができたか。
3	これまでの多文化に関わる学習で学んだことを基に、今後学級や個人でとりくんでいくことについて話し合う。 学級や学校をよりよくしていくために、とりくんでいくことを決めよう。	- これまでの学習で学んだことを掲示し、いつでもふり返られるようにする。 - 学級や個人でとりくむことができるような内容を考えさせる。 ☆これまでの学習を基に、自分たちにできることを考えることができる。

2 成果と課題

- ◎ゲストティーチャーを保護者にお願いできたことで、児童が身近なこととして感じる事ができた。
- ◎他の外国籍児童の保護者にも聞いてみたいという児童の意欲が見られた。
- ◎ゲストティーチャーの児童への願いを聞いたことで、人間関係作りの大切さを改めて感じる事ができた。
- 関連図書を読んでいる際に、外国籍児童から、「本に載っている内容を自分も体験したことがある」という声が挙がったことで、現実感が高まり、児童にとっても本の内容が身近に感じる事ができた。
- 事後アンケートの結果、仲良くなりたい気もちが高いものの、言葉の壁や手段を知らないことで困難さを抱えていることがわかった。
- ▲新型コロナウイルス感染症対策のため、ゲストティーチャーの講話の日程に遅れが出てしまい、とりくむ期間が長くなってしまった。
- ▲児童の学びに向かう意欲を継続させるために、掲示物やとりくむ内容に工夫が必要だった。
- ▲外国籍児童への接し方を考え、実践してもすぐには変化が起きにくく、児童に達成感を味わわせられなかった。



資料 1



ゲストティーチャーより
お互いのルールを知ったほうが良い
仲間外れは絶対にしないでほしい

子どもの反応

- ・友だちを大切にしたい。
- ・違うところがたくさんあった。
- ・外国のことをもっと知りたい。
- ・学校や勉強がすごく違っていた。



資料 2

◇ 授業の具体Ⅱ

第5学年 総合的な学習の時間（環境問題）

指導者 塩澤 耕平（袋井市立浅羽東小学校）

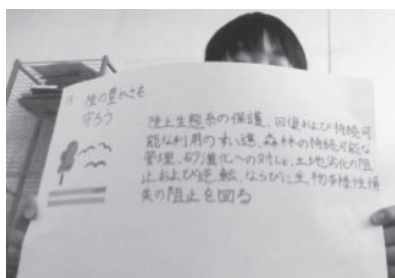
1 学習計画

時数	内 容
1	オリエンテーション ・総合的な学習のテーマととりくみについて説明
2 3 4	SDGs についての調べ学習 ・17 の目標について知る ・特に興味を惹かれた目標について調べ、ワークシートにまとめる
5	アースキッズチャレンジの説明 ・家庭でのガスや水道のメーターチェックの仕方 ・活動冊子の記入方法の説明 1 回目のメーターチェック 5 / 25 ~ 5 / 31
6	ECO 出前講座 ・環境講座 ・SDGs のすごろくゲーム（さいころをふって、止まったマスに書かれている目標に合わせてクイズが出題される）
6 7	アースキッズチャレンジのキックオフイベント ・それぞれの講座を通して、温暖化防止へのとりくみを身近に感じて、家庭でのとりくみへの意欲を高める ○廃棄物の分別方法 3 R + 1 R ○家庭でのエコとりくみ講座 ○自転車による自家発電体験 ・キックオフイベントを受けて、家庭でのとりくみを考える
	家庭でのエコに対するとりくみを実践しながら、2 回目のメーターチェック 6 / 7 ~ 6 / 11
8 9	1 学期の学習のまとめ ・SDGs について学んだことやアースキッズチャレンジで学んだことをふり返る ・2 学期に学んでいきたいことを考える
10 ~ 17	全校や校外にどのように発信していくか考え、準備をすすめる 10 / 7 アースキッズチャレンジセレモニー ・エコリーダー認定賞の授与 ・エコリーダーとしての自覚をもち、今後もとりくみを継続できるように働きかける
18	古新田集会で全校・保護者に発表する（15 分以内の動画で） ☆発表に対するフィードバックを求めることで、自分たちの発表で周囲に影響を与えられたことがわかるようにする

※アースキッズチャレンジ
静岡県地球温暖化防止活動推進センターのご協力で実施

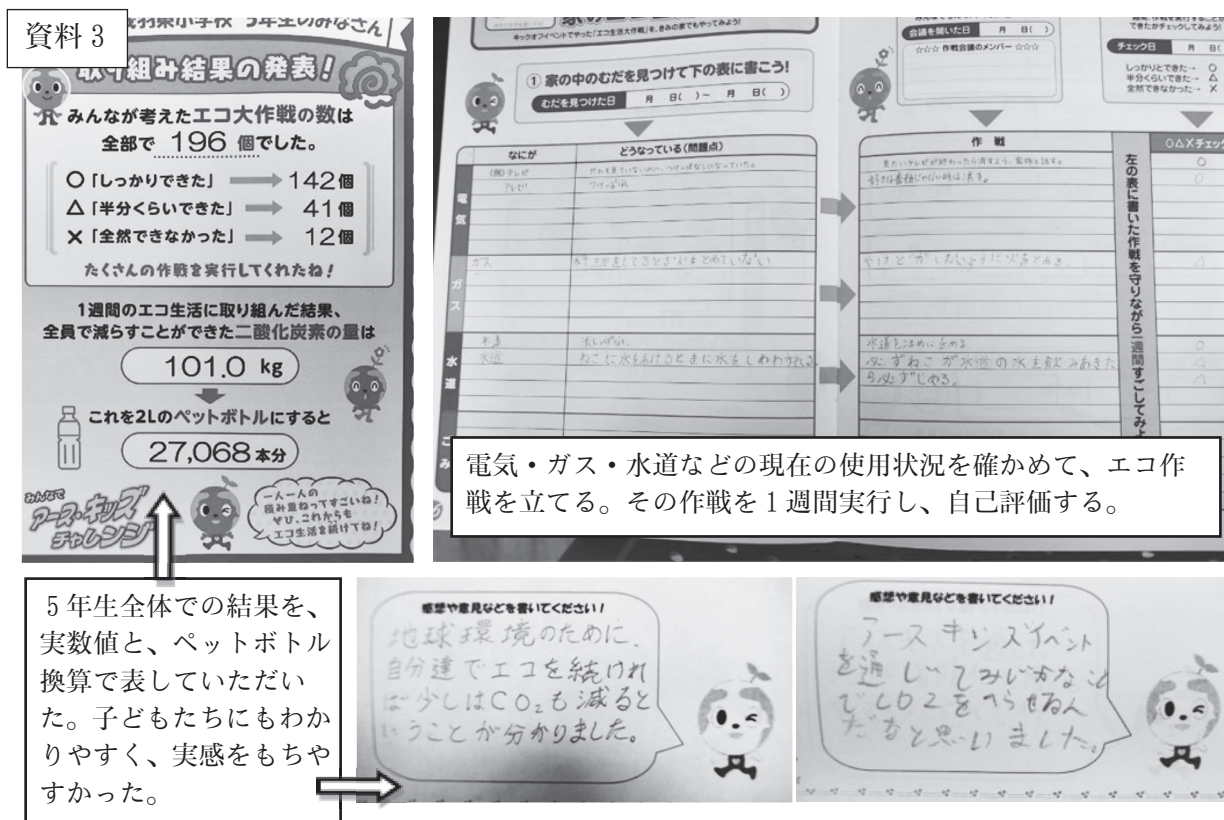


資料 3



2 成果と課題

- 各家庭でのとりくみを友だちと相談しながら考え、実践することができた。
 - どれくらい CO₂ を減らせたのかを数字で表すことで、成果を実感することができた。
 - 「自分たちでも CO₂ を減らすことができることがわかった」「思ったよりたくさん CO₂ を減らせたのでびっくりした」といった感想が見られ、温暖化をより身近に感じられる児童が多かった。
- ▲家庭との連携が不十分で、意欲の低い児童も見られた。
- ▲各家庭で行った CO₂ 削減のとりくみを行ったが、その効果を求める数式がやや難しく、どれくらい減らせたのかを実感できない児童も見られた。



◇ 2年間の研究をふり返って

この2年間の研究で、「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する子どもたちを育てるために」は、身近にある問題や視点に関心をもたせることが特に大切だと感じた。多文化共生についても、SDGsについても、子どもたちにとって身近に感じるものほど、興味関心は高い。そんな視点は、身の回りに数多く存在している。子どもたちにどうやってその視点をもたせ、考えさせるか、そういった実践の積み重ねが、子どもの視野を広げていくだろう。そして、実践によって子どもたちに変化を実感させることが、シティズンシップ教育の「自分事として」という視点でも重要だと感じる事ができた。

自分自身も自分の実践やほかの所員の方の実践に触れることで、様々な教育活動の中にシティズンシップ教育との結びつきを感じることができるようになった。今後は、より広い視点をもって実践を積み重ねていきたい。

自分の意見をもち、発信すること 友だちの意見を自分の意見と比べながら聴き、新しい考えをもつこと

シティズンシップ教育とは、市民という観点から社会の中で生きるための学習であると考えています。市民として、自分に何ができるか、どのような方法で自分の意見を伝えるかを考え、社会に主体的に関わる力をつけて成長してほしいと願っています。国語の学習から、自分の考えを相手にわかりやすく伝えること、相手意識をもって自分の思いをわかってもらうために、自分の考えを表現する力を育てたいと考えました。

◇ 授業の具体 I

国語科学習指導案

指導者 青谷 安芸（島田市立初倉小学校）

1 単元名 段落とその中心をとらえて読み、感想を伝え合おう
「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」

2 単元の目標

- ・段落の役割について理解することができる。
- ・全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
- ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。
- ・すすんで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って、読んで考えたことを伝え合おうとしている。

3 単元計画

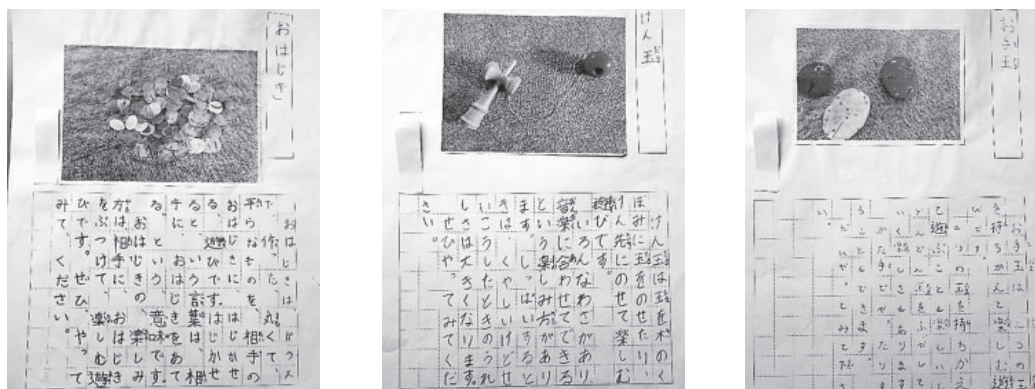
次	時	学習活動	指導上の留意点（・）
第一次	1	○学習の見通しをもつ ○『言葉で遊ぼう』を読んで、文章の書き方、説明文のわかりやすさを知る。	・1年生に、昔の遊びについて説明することを伝え、本単元で学ぶことの見通しをもたせる。
	2	「言葉で遊ぼう」や「こまを楽しむ」で説明文を学習して、1年生に昔の遊びをしょうかいしよう。 ○文章の工夫を見つける。	
第二次	3	○『こまを楽しむ』を「はじめ」「中」「終わり」にわけろ。	・「中」の書き方の工夫を見つける。 ・筆者の書き方について工夫しているところを見つける。
	4	○「中」のこまについてどんな種類のこまがあるのだろう。	
	5	○「終わり」に書かれていることは何だろう。 ・はじめと中のまとめが書かれている。 ・筆者が伝えたいことが書かれている。 筆者が一番伝えたいことは何だろう。	

第三次	6	○6つのこまの中から、いちばん遊んでみたいこまを理由も入れて書く。	• 昔の遊びを思い出し、来年のペア学年である1年生にわかりやすく教えてあげること、上級生としてお手本になろうという意欲をもたせる。 • 自分が選んだ昔の遊びについて、文章の中心をとらえながら、楽しみ方と遊び方を書くように指導する。
	7	○昔の遊びについて1年生に紹介しよう。 (資料1) ・お手玉について、教えてあげたい。 「お手玉」は、小豆が入った袋を二つ使って遊びます。右手と左手に一つずつもって、右手のお手玉を上に向けて、左手に持っていたお手玉を右手に持ち変えて、左手でキャッチする、それを繰り返す遊びです。長く続けることは難しいので挑戦してみてください。	
	8	・けん玉について教えてあげたい。 「けん玉」は、十字の形をした木の棒に紐でつながれた球がついています。球には穴が開いていて、剣先と呼ばれる木の棒に入るようになっています。木の棒には3つ球を乗せられる皿がついています。球をお皿に乗せる、球を剣先に入れるなどして遊びます。いろいろな技ができるようになると楽しいです。 ・かるたについて教えてあげたい。 「かるた」は、絵が描いてある札をならべて、読み手が言った最初の文字が書いてある札をとる遊びです。大勢で遊べて、とった枚数を競うこともできて楽しいです。 ○友だち同士で発表し合う。	

4 授業の成果と課題

- 筆者が伝えたいことはまとめに書いてあるが、その中でも一番伝えたいことは何かを考えることで、読み手に伝えるためにはどのように書くとよいかを学ぶことができた。
- 誰に伝える文章かをはっきりさせて書くと、読む相手を意識して書くことができた。
- 読み手にわかってもらうためには、文章だけではなく、絵や図、写真の示し方も考えさせていきたい。

5 資料 『1年生に紹介する昔の遊び』の児童の作品（資料1）



◇ 授業の具体Ⅱ

1 単元名 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう
「すがたをかえる大豆」「食べ物のみみつ教えます」

2 単元の目標

- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
- ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。
- ・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。
- ・幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。

3 単元計画

次	時	学習活動	指導上の留意点(・)
第一次	1	○授業の見通しをもつ。	・説明文の工夫を見つけ、自分たちの住む地区でとれる作物について興味をもたせる。
	2	・『すがたをかえる大豆』で説明文の書き方の工夫を見つけ、学習後、初倉地区で作られている作物についての説明文を書くことを伝える。 ○「はじめ」、「中」、「終わり」を考える。	
第二次	3	○問いと答えについて考える。	・読み手に投げかけている文やわかりやすく書かれている文を見つける。 ・説明文の書き方の工夫を探しながらまとめていく。
	4	○問いについて考える。	
	5	問いの文を入れるとしたら、どこにどんな文を入れたらよいだろうか。	
	6	○中の書かれ方について書き方をまとめながら大豆がどの	
	7	ようにすがたをかえているかを考える。	
	8	○中の書き方の工夫についてまとめる。 ○筆者の書き方の工夫を見つける。	
第三次	9	○「食べ物のみみつ教えます」を読み、初倉でとれる作物	・初倉地区でとれる作物として、お茶・とうもろこし・米について本やインターネットで調べる。 ・読み手にわかりやすい視点で書くよう指導する。
	10	から、すがたをかえている作物を探して選ぶ。 初倉でとれる食べ物のみみつを書こう。	
	11	○食べ物をおいしく食べる工夫について、図書館やイン	
	12	ターネットを使って調べる。	
	13	(資料2)	
	14	○文章の構成を考えて下書きをする。	
	15	○清書する。(資料3)	
		○感想を伝え合う。	

4 授業の成果と課題

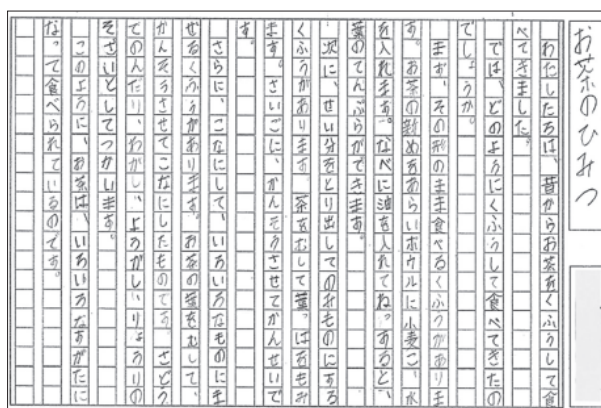
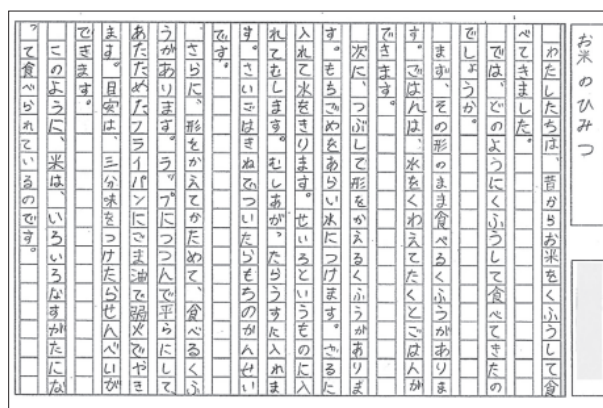
- ・自分たちの住んでいる地区でどのような作物がとれるか興味をもつことができ、その食べ物をおいしく食べる工夫がされていることを調べることができた。

- ・調べたことを、誰が読んでもわかるように書くために、どのような文章構成をしたらよいかを考えることができた。
- ・語彙が少ないので、自分の思いや方法を文章で表すことが難しい子も多く、わからない言葉も多かったため、調べることに苦戦する様子が見られた。今後、語彙を増やしていきたい。
- ・自分の考えをもつことも友だちの意見を受け止めることも同じくらい大事である。自分の考えをもって話し合いに参加し、友だちの意見を聞いて自分の考えを広げていく力を育てていきたい。

5 資料



『子どもたちが作物について相談する様子』（資料 2）



『児童が書いた文』（資料 3）

◇ 2 年間の研究をふり返って

「シティズンシップ」という言葉を聞き、初めは何をすればよいかわかりませんでした。しかし、委員会で学ぶうちに、市民性（シティズンシップ）を育てることは、まずは自分の意見を相手にわかりやすく主張することが大事であると考えました。自分たちの住んでいる市をよくするためには、課題を見つけ、解決するためにどうすればよいかを考えることが大切です。そのためには、まずは自分の考えを相手にわかってもらうために根拠をもって伝えること、そして話し合いの中で違う意見を受けとめることなど、多数の意見を取り入れることによって新しい考えを生み出し、もっとよい方法を生み出すことへとつながっていくのではないかと思います。市民性を育てることは、特別なことをするのではなく、普段の生活・授業の中で、少しずつ身につけていけることだと思います。自分の意見を相手意識をもって伝えること、相手にわかってもらうことから始めていき、小学校 6 年間かけて、自分たちで課題を見つけ、解決していく方法を見つけていく力を育てていきたいと思っています。

地域の問題を『自分事』として考える

子どもたちが将来、国や社会を創る主役として、主体的な担い手になるためには、まず身近な地域の問題を捉えることが大切であると考えました。様々な地域の課題に対して、子どもたちが、相手の立場や多様性を尊重しつつ、自ら考え、自ら判断し、自ら行動する姿をめざして実践を重ねました。また、子どもたちの実態や発達段階に応じて、地域の問題を『自分事』として考えることを通して、市民の一員である意識を高めようと考えました。

◇ 授業の具体 I

地域の魅力を発信しよう

指導者 杉山 弓月（御殿場市立富士岡小学校）

富士岡小学校では、総合的な学習の時間に地域の魅力を発信することを目標とし、活動を行っています。「3 年生で身に付けた知識や技能を活用して、地域の魅力を発信する」という目標から昨年度の実践と関連させ、地域を教材とした研究ができると考えました。また、シティズンシップ教育の視点からも考えられると思い、総合的な学習の時間を選びました。地域の問題を『自分事』として考えられる子どもの姿をめざし、授業実践を行いました。

1 単元目標

- ・ 3 年次で調べた内容を活用したり、インターネットを利用したりして、必要な情報を収集することができる。【知識及び技能】
- ・ 自分で課題を発見し、設定することができる。
- ・ 目的に応じて、わかりやすくまとめ、表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】
- ・ 課題の解決に向け、主体的かつ協働的に活動しようとする。【学習にとりくむ態度】

2 実践内容

(1) どんな方法で発信したらいいか考える。

7/16 みか 発信！御殿場

どんな方法で発信したらいいのだろうか。(少しも口をふたない。米花らたい)

① 新聞 (資料)
② ポスター (駅には、あてらうなど)
③ パンフレット (絵本) ... 大人用・子供用
④ SNS (Youtube, Twitter, など)
⑤ チラシ
⑥ セン伝 (かんばん)

メリット(長所)とデメリット(短所)をくらべよう

メリット(長所)	デメリット(短所)
① 新聞 (資料) ・ 人から見て高評価や低評価がある。 ・ 子どもと大人に分かれて、新聞に載る内容が異なる。 ・ 新聞に載ると、多くの人に知られる。 ・ 新聞に載ると、多くの人に知られる。 ・ 新聞に載ると、多くの人に知られる。	① 新聞 (資料) ・ 人から見て高評価や低評価がある。 ・ 子どもと大人に分かれて、新聞に載る内容が異なる。 ・ 新聞に載ると、多くの人に知られる。 ・ 新聞に載ると、多くの人に知られる。 ・ 新聞に載ると、多くの人に知られる。
② ポスター (駅には、あてらうなど) ・ 駅には、あてらうなど。 ・ 駅には、あてらうなど。 ・ 駅には、あてらうなど。	② ポスター (駅には、あてらうなど) ・ 駅には、あてらうなど。 ・ 駅には、あてらうなど。 ・ 駅には、あてらうなど。
③ パンフレット (絵本) ... 大人用・子供用 ・ 大人用・子供用。 ・ 大人用・子供用。 ・ 大人用・子供用。	③ パンフレット (絵本) ... 大人用・子供用 ・ 大人用・子供用。 ・ 大人用・子供用。 ・ 大人用・子供用。
④ SNS (Youtube, Twitter, など) ・ SNS (Youtube, Twitter, など)。 ・ SNS (Youtube, Twitter, など)。 ・ SNS (Youtube, Twitter, など)。	④ SNS (Youtube, Twitter, など) ・ SNS (Youtube, Twitter, など)。 ・ SNS (Youtube, Twitter, など)。 ・ SNS (Youtube, Twitter, など)。
⑤ チラシ ・ チラシ。 ・ チラシ。 ・ チラシ。	⑤ チラシ ・ チラシ。 ・ チラシ。 ・ チラシ。
⑥ セン伝 (かんばん) ・ セン伝 (かんばん)。 ・ セン伝 (かんばん)。 ・ セン伝 (かんばん)。	⑥ セン伝 (かんばん) ・ セン伝 (かんばん)。 ・ セン伝 (かんばん)。 ・ セン伝 (かんばん)。

子どもたちは、様々な発信方法を考え、自分たちでメリットとデメリットを出し合いました。「紙を使うと、捨てられてしまうかもしれないし、看板やポスターは見てもらえるかわからない」などと子どもたちの実体験の中から意見が挙がっていました。

子どもたちに、「誰に御殿場の魅力を発信したいのか」と問いかけると、「全国の人」や「世界中の人」「若い人（子どもたち、未成年）」など御殿場市民により知ってもらいよりも、いろいろな人に伝えたいという思いをもっていることがわかりました。そう考えていくと、自然とSNSでの発信が重要であると考え子どもが増えました。そのような話し合いにより、学級の中で、ロイロノートを使って御殿場の魅力を発信するCMを作るようになりました。

（2）御殿場市魅力発信課が作るCMを視聴し、どんなCMにすると良いか考える。

子どもたちは、自分たちがCMを作るためにどんなことが必要か、真剣に考える姿がありました。赤い付箋（良さ）と青い付箋（改善点）をそれぞれ書き出しました。そして、黄色付箋で自分たちが作るときのポイントを見つけていました。全員でCM作りのポイントを共有することで、子どもたちが必要な情報を集める作業のポイントを理解することができました。

（良さ）	（改善点）	（CM作りのポイント）
音楽と映像が合っている 富士山がきれい→み力がわかりおだやか いろんな角度の富士山 何をやりたかわかる 御殿場にしかない物を 笑い声があり楽しそう 季節での変化をとり入れる メインは真ん中 自然が多い 過ごしやすさをアピール 音がぜいたく→たべたくなっちゃう	長い おだやかさばかりで明るさが ない 言葉が少ない 御殿場のCM アピール少ない 同じ映像ばかり 明るくうつつしい	よりわかりやすく メインは大きく、長く 大きくアピール →本当に行きたくなるもの 情報は正かに →多くても良くない 少なくとも良くない

（3）CM作り

① 情報集め

御殿場市の魅力を発信するためには、3つのポイントを押さえて情報収集する必要があると話し合い、以下の通りになりました。

A 正確な情報 B 目を引かれるような画像 C 地元目線で

特にCは、御殿場にしかないものにこだわっていこうと話し合いの中で私たちが感じる情報も入れていこうという視点で、情報収集を始めました。

A	B	C
風穴を調べて知ってとく なことやきれいなものを 見れて御殿場以外に住ん でいる人が御殿場の良い ところを見て御殿場に來 るといいなと思います。	写真で改めて見ると御殿 場って観光地や有名など ところが多いんだと思っ た。御殿場の魅力って全 部素敵だから、全部のせ たい。	（テレビと同じ感じ） 同じ写真じゃつまらない からおもしろさもつけた せば良いと思う。 短くしてCMに近づける。

子どもたちのふり返りから、地域の魅力を再発見することにつながっていました。また、タブレットの導入により、今までと違ったアプローチで発信することができるので主体的に学習にとりくんでいる態度が見られました。

② CM 作り

それぞれが自分の思いを伝える CM 作りを始めました。



良い画像を見つけたぞ。画像の中に声を入れてみよう。

CM はやっぱりインパクトが大事だ。

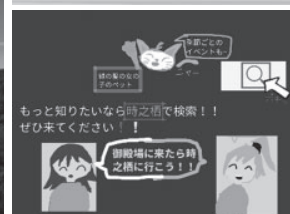
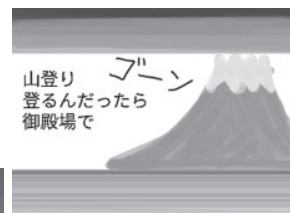
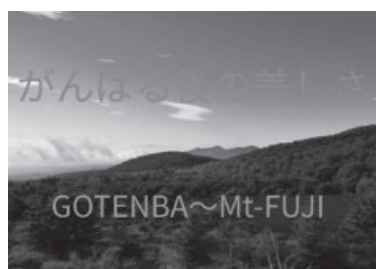
登山しているのがわかるような絵をかこう。



ふり返り
CM が上手にできた。
声を出すところを工夫した。どんな文字にするかなやんだ。

ふり返り
説明することを映すときに、見やすくなるようにそのかこいの色を変えたり、文字を太くしたりした。

完成した CM
(一部抜粋)



子どもたちが自分たちなりに工夫をして、御殿場の魅力を発信する CM を作り上げていました。子どもたちは、「早く見てもらいたいな」と自分の作品に自信満々な様子でした。CM の中には、「御殿場にぜひ来てください」など目的を忘れずにとりくめている子どももいました。

3 成果と課題

◎成果	△課題
- 地域教材にしたことで、子どもたち自身で課題を設定することができたこと。 - RESAS を用いたことで、より子どもたちが魅力を発信したいという思いに繋がったこと。 - 自分の地域の魅力を再発見することができた。 - タブレット端末を活用したことで、子どもたちは意欲的に活動へとりくむことができた。 - 地域の問題を自分たちで何とかしたい、魅力を伝えたいとどの子も主体的にとりくめた。	- 実際に子どもの作品を発信したいが、個人情報の問題などが考えられるため、難しい。 - 子どもの思いの差は感じられる。 - CM 作りに没頭し、本来の目的を忘れてしまうことがあった。 (面白さやインパクト重視になり、何を伝えたいのかがわからない。)

◇ 授業の具体Ⅱ

地域のためにできること

※2020年度御殿場市立神山小学校での実践

子どもたちが卒園した神山幼稚園が2019年度末をもって閉園することになりました。しかし、高内地区区長をはじめとする神山地区の方々の想いや地域住民の声が市政に伝わり、生涯学習センター「くすのき」に形を変えて、残すことになりました。

子どもたちは、市役所の資料から「くすのき」が完成するまでの政治の流れについて学習するとともに、市長や高内地区区長の思いを知り、自分たちが地域の一員としてできることがないかと考え始めました。

1 単元の目標

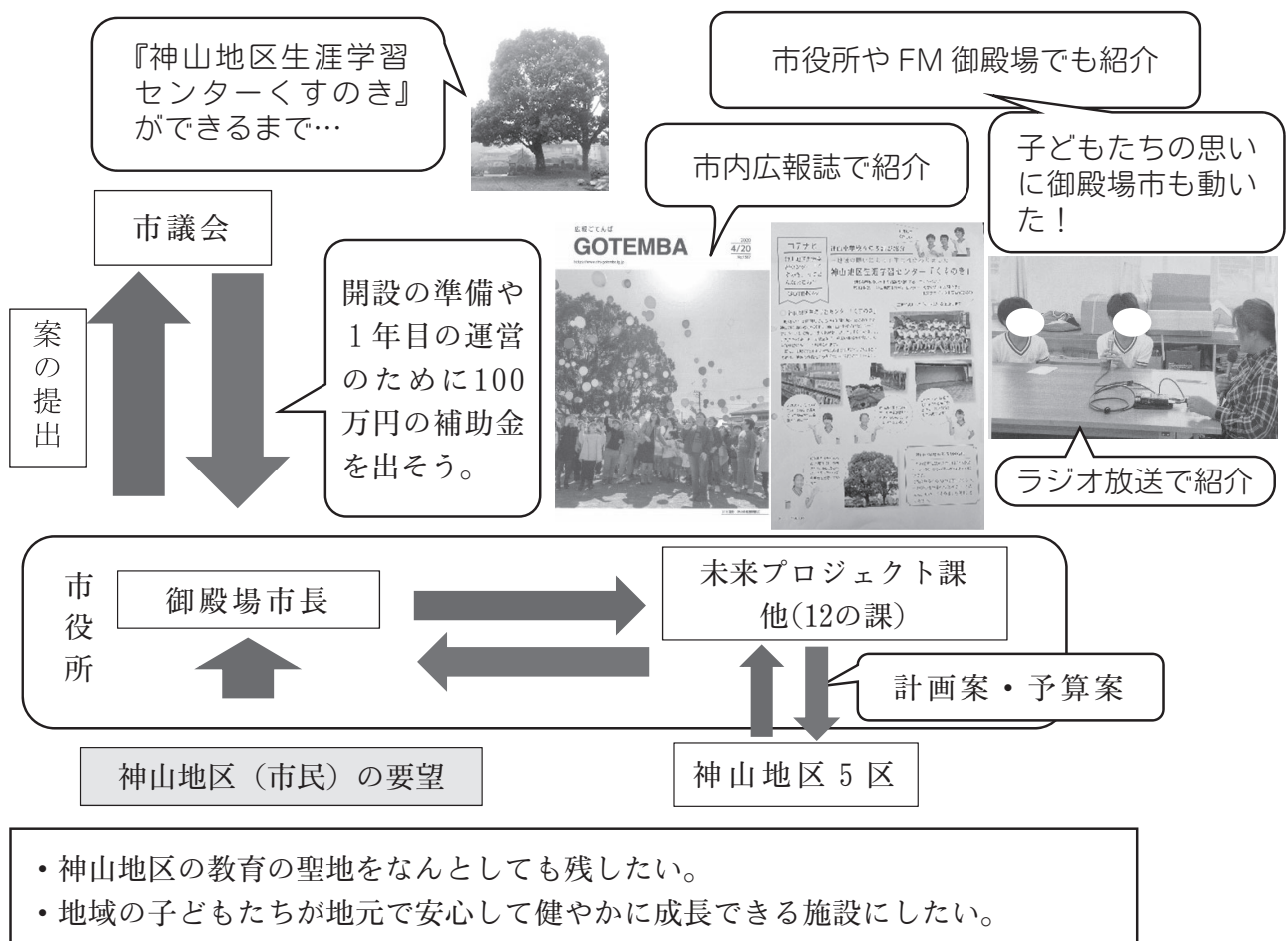
- ・神山地区生涯学習センターの開所の経緯に関心をもち、地域の方々の思いを知ったり、市長や市役所が深く関わっていることに気づいたりしながら市議会や税金の働きなどを理解する。

【知識・技能】

- ・自分たちにできることはないかと考える活動を通して、地域の方や御殿場市の思いを受けて、地域の一員として考えようとする。

【思考力・判断力・表現力等】

2 単元構想図



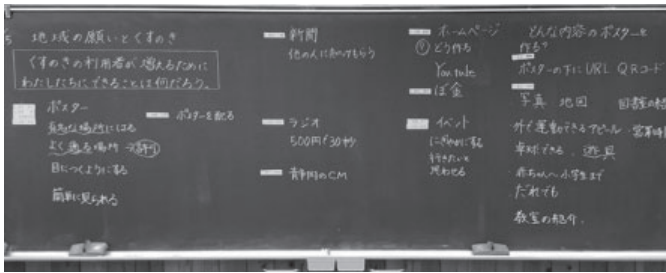
3 本時の指導（8／10）

（1）本時の目標

「くすのき」が地域の思いでできたことを理解し、運営していく上では、利用者を増加させないといけないという思いを膨らめた子どもたちが、利用方法とその内容や選ぶ理由を話合うことで、地域の一員として、自分たちでできることを考えることができる。

（2）指導過程（一部抜粋）

段階	形態	学習活動 ○教員の働き掛け	* 支援・留意点 評価等
つかみ	一斉	1 くすのきで問題になっていることを確認する。 ・人が来てくれない。・まだ知られていない。 ○たくさんの人が来て欲しいという問題がありましたね。	・掲示物で区長の困り感を確認する。 ・区長さんや市役所の方の思いを確認する。 ・Aのふり返りを紹介する。 ・利用者を増加させるために、まずは知ってもらうことが大切だと気づかせたい。
	一斉	2 Aの前時のふり返りを読み、本時の課題をつかむ。	
深める	個	くすのきの利用者が増えるために、わたしたちに何ができるのだろうか。 ・まずは、御殿場市のみんなに知ってもらうことが大切だね。 ・でもさ、知ってもらうためには、どうしたらいいのだろう。 ・広報御殿場みたいにアピールすればいいんじゃないかな。	・自分の意見をもつことが難しいBには、今まで知ってもらうためにどうしてきたか想起させ、一緒に考える。
	ペア→一斉		
ふり返り	個→一斉	3 自分ができるアピールの方法を考える。 ○どんな思いでその方法を選んだのですか。 ・くすのきを広めたいから。	・どんな内容をアピールすると効果的なのかという視点で考えるように促す。 *考えをもつのが難しいBとCには、友だちの意見はどう思うか聞き、話合いに参加できるようにする。 ・学びを書くときは、自分の思いを含めて記述するように促す。
	個	・多くの人にくすのきがあることを知ってほしいから。 ・みんなが集まる施設を作ろうとしているから御殿場市民全員に知らせるため。	
		4 学習内容をふり返り、自分の思いを書く。 ・わたしは、くすのきの利用者が増えるためにポスターを作ればよいと思いました。神山地区の人たちが良く行く場所に掲示すれば、みんなが行ってみたいと思うからです。	評価【思考力・判断力・表現力等】 地域の一員として自分にできることを考えている。 （発言・ノート）



小さい子から大人まで誰でも気軽に
行けることや開かれている教室を紹介
するポスター作りをしました。

総合的な学習の
時間へ移行



A：ポスターを作って有名な場所に貼れば、
ここがいい場所と教えられると思う。

B：Aと同じで、ここら辺だと時之栖で、
一番有名な場所に貼って置けば、たぶ
んいっぱい来ると思う。

C：ぼくもAやBのように、有名な場所、
宣伝している場所に貼ってもらった
り、有名なレストランに貼ったりすれ
ば、もっと来ると思う。

D：みんなが良く通る場所に貼ってみんな
が行くようにする。

E：4人と一緒に、人が見ることはもちろ
ん、学校の低学年の子、各家庭に1枚
ずつ配ると知ってもらえると思う。

地方紙でも、今回の活動がとり上げ
られました。

多方面から価値づけされ、子どもた
ちはやり遂げた達成感を味わうことが
できました。

4 授業の成果

- ・利用者を増やしたいという区長さんの思いを『自分事』として企画を考えることができたこと。
- ・利用する様々な人の立場に立って考えることができたこと。
- ・施設の活性化に向け、みんなの思いを実現しようと活動に参加したこと。

◇ 2年間の研究をふり返って

子どもたちの身近である地域社会の問題を教材にしたことで、子どもたちが自分で課題を設定し、解決しようとしていました。地域の問題を他人事ではなく『自分事』として捉え、学習にとりくむことができました。また、友だちと協力して「自分たちの地域をどうにかしたい」や「無くしたくない」などの思いをもつことができました。地域教材を活用することで子どもたちの身の回りで実際に起きている問題について切実に考えることができ、さらには自分たちが日頃から地域の中で支えられ、生活していることにも気づくことができました。この学習の繰り返しが、社会を担う子どもたちを育てていくのではないかと考えました。子どもによって、地域に対する思いに差があるのも事実です。しかし、少しでも地域教材を通して考えるきっかけを与えることは、社会に出ていくために必要なことと考えます。

社会科や総合的な学習の時間だけではなく、他の教科においてもシティズンシップ教育の視点をもって、授業改善を図っていきたいと思います。

シティズンシップ教育とこれからの多様性について

今回私は、福祉教育とシティズンシップ教育の視点を合わせて学習にとりくめないかと考えました。世の中には多様な人々がいます。それを前提に、障害のある人、高齢者、LGBTQ+ など、特性（個性）のある人々と共に考え、支援できるような力を養うことができる学習が必要であると思います。「能動的な市民」として、自ら思考したり、それにより行動したりする力を養い、成長することが大切であると考えました。

◇ 授業の具体 I

道徳科学習指導案

指導者 高橋 雄太（浜松市立佐鳴台小学校）

※ 2020 年度浜松市立萩丘小学校での実践

1 主題名 「相手に伝える、理解するー伝える、理解するって難しいー」

教材名「聲の形（映画／漫画）」大今良時 講談社

B 相互理解、寛容

2 教材観等

アニメ映画である「聲の形」を題材に、聴覚に障害のある人との相互のコミュニケーションについて考えさせた。映画は、朝の活動時間に区切って視聴した。子どもたちは、異文化のコミュニケーションについて興味をもって鑑賞している様子だった。

この作品は、主人公の男の子とヒロインで聴覚に障害のある女の子との間のコミュニケーションの行き違いにより、相互理解できないことへのもどかしさを描いており、作品を見て子どもたちなりにどうしたら歩み寄れるのかを考えることをねらいとした。

3 本時の学習

（1）ねらい

お互いのコミュニケーション方法の違いによりすれ違いが生じている二人の様子の場面を通して、相手を思いやる心情を育てる。

（2）学習過程

学習活動と主な発問 (○発問◎中心発問・予想される子どもの反応)	指導上の留意点及び支援
1 「ディスコミュニケーション」について考え、発表をする。 ○「ディスコミュニケーション」を感じる時はどんな時ですか。 ・喧嘩をするときに感じるな。 ・外国の方で、ジェスチャーをする時。	・ディスコミュニケーションについて説明をし、日常生活の中でディスコミュニケーションが無意識のうちに使われていることを伝える。

2 めあてを書く。	
相手を理解するためには、どうしたらよかったのかを考えよう。	
3 二人の立場を考え、発表する。 ○二人の立場について、思い出しましょう。 ・石田君は、耳の聞こえにくい硝子さんをいじめていました。 ・硝子さんは、自分の障害を知ってもらうために、友だちに訴えていました。 ◎お互いに理解するためには、どうすればよかったのでしょうか。 《硝子さん側》 ・硝子さんは一方的に理解してほしいって押し付けるんじゃないくて、石田君の気持ちも考えてもよかったと思います。 《石田君側》 ・石田君は色々と考えていたところもあったと思うので、いじめという方法じゃなくて、書いて伝えることが大事だったと思います。 4 自分がその場にいたらを話し合う。 ○自分がその場にいたら、どのような行動をしますか。 ・もしかしたら、石田君のことが怖くて、私も一緒に硝子さんをいじめてしまっていたかもしれません。それでも、先生に伝えることが大事だったかと思いました。 5 まとめを書く。	・二人の立場を明確にし、どのような立場の違いがあるかを確認できるようにする。 ・ふり返りができるように、二人の言動を簡単にまとめたものを提示する。 ・スライドの中に、重要な場面の映像を差し込み、もう一度二人がどのように理解し合う必要があったのかを考えさせる。 ・映像から、はっきり伝えたいが伝えきれないもどかしさがあったことに気づかせる。 ・自分がその場にいたらどのような行動をするか考えさせ、相手の立場や思いを尊重できるかを話し合わせる。 「主体的に学習にとりくむ手だて」

4 授業の成果と課題

学習後、子どもたちから手話についてもっと学びたいとの話があり、主体的に学ぶ意欲を養うきっかけにもなったと感じている。当時、帰りの会で「今日の手話表現」の時間を設け、簡単な単語や日常会話について学んでいた。子どもたちの中には、自ら「手話ニュースを見てみた」「単語の本を買ったよ」と話す子どももいた。

一方で、自分ならどのような行動をするのか、話し合いの中で考えがまとまるかと思ったが、周囲の反応に押され、模範的な意見に流れてしまったため、発達段階をよく考え、設問を設定する必要があると感じた。

5 子どもたちの声

- ・障害のある人や異文化の人とのコミュニケーションは、難しいと感じた。コミュニケーションをとっていくために、相手のことを知りたいと思う。
- ・気持ちが伝わらないことは、ストレスになると思った。

◇ 授業の具体Ⅱ

私は大学生時代に聴覚に障害のある学生と仲が良かった。日頃の会話は手話が中心であった。深く話し合うために、その友人から手話を教えてもらった。

授業の具体Ⅰにも記載したが、子どもたちの中には「手話を使って会話をしてみたい」「単語の本を買って、勉強している」との話が上ってきていた。そのため、単発ではあったものの、手話を中心に学習をした。内容としてはジェスチャーから手話へつなげることを行った。まずは、手話を覚えていなくても、相手へ伝えるためにどんな手段があるか発問した。紙に書く、ジェスチャーをする、大きく口を開けるなど、様々な意見が出た。特に何も教えないまま、ジェスチャーを通して友だちに伝える活動を行い、楽しみながらやることができた。手話自体、そのものの様子や状態を表すものも多数あるため、ジェスチャーを通した学習は非常に意義があったと感じている。

◇ 授業の具体Ⅲ

1 学習の概要

私は「障がい学習支援室」に在籍し、障害のある学生のエンパワメントについて共にまとめたり、講義や空きコマの支援等について考えたりしていた。

重度の肢体不自由による電動車イスを利用する友人に講演を依頼した。講演では、障害の状況や日常生活の様子、支援の程度、現在行っている活動などについてを話してくれた。

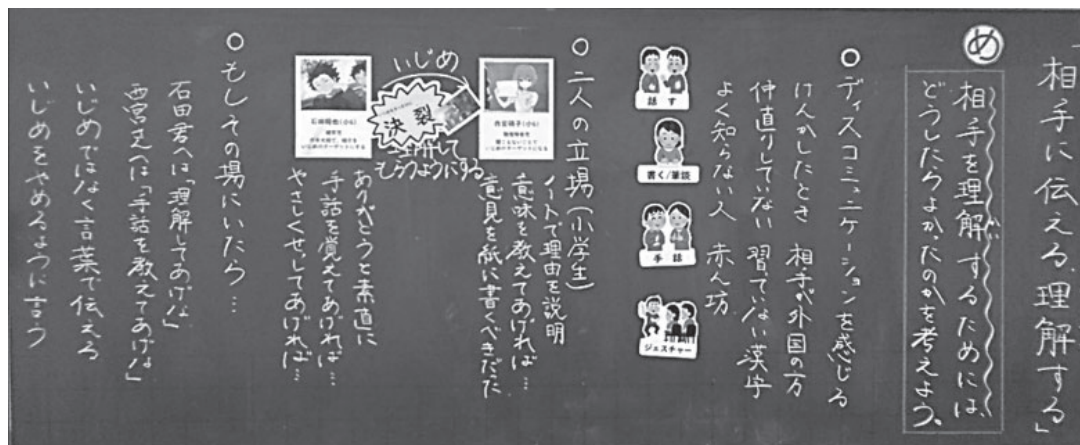
子どもたちは、初めてかかわる肢体不自由者の話を真剣に聞いている様子であった。電動車椅子の動かし方や、日常の食事、ノートのとり方などについて、子どもたちから多岐に渡る質問があり、自分たちにはどのような支援ができるのか、相手がどんな支援を求めているのかなどを考えるきっかけになった。肢体不自由の当事者から直接話を聞くことにより、障害のある人への決めつけをもたない心のユニバーサルデザインが大切であるとの考えをもった。

感想の中には「一方的に支援の気持ちを押し付けるのではなく、支援を必要としている人の話を聞きながら、支援の方法を考えることが大切」と記している子どももいた。

2 子どもの声

- ・今まで、助けることが大切だと思ってきたけど、一緒に考えていくことが大事だとわかった。
- ・車椅子での生活がそれほど大変だとは知らなかった。これからは車椅子生活を送っている人たちのことも考えて、生活していきたい。

◇ 資料



授業の具体Ⅰ－①

「相手に伝える/理解する」
～伝える、理解するってむずかしい～

① 相手を理解するために、どうしたらいいか、考えたか

ディスコミュニケーション (Dis-Communication) を感じるとき

・耳の聞こえない人と話すとき、・相手の手話で話すとき、・ケンカするとき、 外国の方

お互いに理解するためには、どうすればよかったらう？

・文章だと時間がかかると手話で話す。
・1行たりするのではなくノートで理由を説明
・意見を紙に書くべきだった。

・いじわるしないで手話を覚えて話す。
・ありがとうと素直に
・やさしくせめてあげれば...

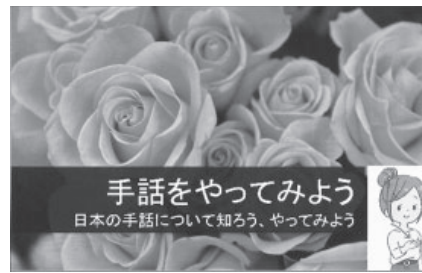
もしその場になったら、あなたはどんな行動をする？

・いじめをとまとめる。・「かわいそうだから」と理由も説明して
・石田君へは「理解してあげな。」西宮さんへは「手話を教えてあげな。」

② 理解するためににはお互いになんて心で、やさしく、素直にせめてあげれば良かった、と思えたか。コミュニケーションがうまくいったか。

名前 ()

授業の具体Ⅰー②



授業の具体Ⅱ



授業の具体Ⅲ

◇ 子どもたちの心の変化

福祉を主題に置いたシティズンシップ教育を行う中で、大きく変化したことは意識であった。子どもたちは親切のつもりで付き添って支援したり、「可哀そう」などと慈悲の気持ちをもっていたり、当事者の気持ちまで考えることができていなかった。

しかし、学習をすすめるにあたり、子どもたちの考え方が大きく変化していくことに気がついた。特に大きく変化したことは、慈悲の心で相手を見るのではなく、同じ人間として、それぞれの特性（個性）としてとらえ、まずは相手の話を聞いて、一緒に考えていくことが大切であると実感することができたことだ。

また、学級全体での変化も見られた。昨年度、交流学級で3人の子どもたちが来ていたが、今まであまりかかわりが深くなかった。接し方がわからないとの意見が多かった。しかし、ハロウィンパーティーやクリスマスパーティーなど、学級の行事を共に楽しむ姿が次第に見られるようになった。発達（特別）支援学級の子どもたちへ手紙を書き、メッセージを書くようになったからだ。最初は教員主導で動いていたが、徐々に子どもたちが主体的にとりくむようになった。

◇ 2年間の研究をふり返って

2年間の活動を通して私が思うことは、学習から今後、どのように子どもたちがこの社会の中をフィールドワークし、自ら固有の文化を形成している社会や集団に歩み寄れるかが重要ではないかとのことだ。シティズンシップとは、子どもたちへ「行動力」を養うための学習ではないか、と私なりに考えた。特に近年、多様性が謳われる場面がよく見られる。一方で、多様性を認め切れず排除しようとする考え方もある。ただ、今の情勢を傍観し、飛び交う情報に流されるのではなく、意義をもっていかに行動を起こすかが大切だと思う。そこから徐々に周囲への理解が広まっていく。福祉教育はその意味で、シティズンシップ教育と絡めて大変意義があった。

湖西市を過ごしやすい町へ

今まで実践した授業をシティズンシップ教育として捉え直すことが、シティズンシップ教育の推進になるのではないかと考えました。そこで、「地域を題材にする」「ICT機器を活用する」「友だちと協働的に課題を解決する」「多角的な視点をもつ」という4つの観点で授業づくりを行えば、社会の問題を自分事として捉え、自ら考え、判断し、行動する子どもの姿につながるのではないかと仮説を立て、授業実践を行いました。

◇ 授業の具体

国語科学習指導案

指導者 生熊 佳奈（湖西市立岡崎小学校）

1 単元名 湖西市は過ごしやすい町？

2 単元目標

- ・ 報告文や意見文の文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。
【知識・技能】
- ・ 集めた情報を分類したり、関連づけたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
【思考・判断・表現】
- ・ 学習の見通しをもって粘り強く情報を集め、自分の考えが伝わるように表し方を工夫し、報告文や意見文を書こうとしている。
【主体的にとりくむ態度】

3 単元計画

時数	学習内容	観点	評価内容
1	○過ごしやすい町とはどんな町か、ウェビングマップに表す。	思 判 表	・ 過ごしやすい町はどんな町か考え、調査したい内容を選んでいる。 (行動観察、ノート)
2	○教科書の例を読み、報告文の書き方や引用の仕方を知る。	知 技	・ 報告文の構成や特徴を理解している。 (行動観察、ワークシート)
3 4 5	○身近な人にインタビューやアンケート調査をしたり、インターネットや本で調べたりして情報を集め、湖西市が過ごしやすい町かどうか考える。	態 思 判 表	・ 報告文を書くために見通しをもって粘り強く情報を集めている。 (行動観察、ワークシート) ・ 必要な情報を集めるために調べ方を選んでいる。 (行動観察)
6 7	○構成を考え、調べた情報を整理しながら報告文を書く。	思 判 表	・ 集めた情報を分類したり、関連づけたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (報告文)

8 9	○報告会を開き、湖西市が過ごしやすい町であるか話し合う。	思 判 表	・ 報告文を読み合い、自分や友だちの文章のよいところを見つけている。 (行動観察、ワークシート)
10	○「湖西市が過ごしやすい町かどうか」報告した文章をもとに、過ごしやすい町にするための方策について自分の主張を考える。	思 判 表	・ 報告書を書いた経験をふり返り、意見文の題材を選んでいる。 (行動観察、ノート)
11	○教科書の例文の書き方や工夫を話し合い、簡単な意見文を書く。	知 技	・ 意見文の構成や特徴を理解している。 (行動観察、ワークシート)
12 13 14	○報告文を書いたときに集めた情報を整理し、追加で情報を集めたり、自分の経験を思い出したりして意見文を書くための根拠をまとめる。	態 思 判 表	・ 意見文に書くための見通しをもって理由や根拠を粘り強く集めている。 (行動観察、ワークシート) ・ 集めた情報を分類したり、関連づけてりして伝えたいことを明確にしている。 (ワークシート)
15 16	○構成を考え、自分の考えが伝わるように意見文を書く。	思 判 表	・ 事実と意見を区別し、自分の考えが伝わるように表現を工夫して意見文を書いている。(行動観察、ワークシート)
17	○意見文を友だちと読み合い、市役所の人に読んでもらう代表の意見文を選ぶ。	思 判 表	・ 意見文を読み合い、自分や友だちの意見文のよい点を見つけている。 (行動観察、ワークシート)

4 授業の成果と課題

(1) 成果

- ・「地域を題材にする」ことで改めて自分たちが暮らしている地域について知ったり考えたりすることができた。その中で地域のよさや課題も見つけることができた。また自分たちが住んでいる地域を題材にすることは、児童の活動に対する意欲づけとなり、自分事として社会を考えることにつながった。

はくはごみを道や川にすてないで
ごみ箱にちゃんと入れれば川や道に
ごみがなくなって虫も過ごしやすくなった

また公園をきれいにするのは自分でもできる
おとながきれいにしていて人がいた声をかけて
手伝いすることを心がけたいと思った

報告文のまとめには、湖西市が過ごしやすい町になるように、自分ができていることを考えて書く児童がみられた。

- ・「ICT 機器を活用する」ことで必要な情報を取捨選択する機会となり、主体的に情報を判断する力がついた。
- ・報告文を見せ合い湖西市について話し合うことや、より過ごしやすい町にするにはどうすればいいか意見文を選ぶことなど「友だちと協働的に課題を解決する」活動によって、意見を積極的に出し合い、意見をすり合わせる力がついた。
- ・報告文や意見文を、お年寄りや小さい子など別の立場の人物の目線に立って考え、「多角的な視点をもつ」ことで社会の問題を自分事として捉えることができた。

2020 年の実践で選ばれた意見文（一部抜粋）

※ 2020 年の実践では、「湖西市の人口を増やすためにどうすればよいか意見文を書こう」という授業実践を行った。しかし、遊園地やゲームセンターを造るなど自分だけの目線でしか意見を考えることができなかった。

私は湖西市の人口を増やすために若い人向けのお店を建てればいいと考えます。

若い人たちに人気のスターバックスについて調べていたら、スターバックスは全国のカフェランキングで 2 位だとわかりました。湖西市にスターバックスがあれば、わざわざ浜松に行かなくてもいいし、車での移動も少なくなり、車をもっていない人でも自転車などで簡単に行くことができると思います。

2021 年に書いた報告書（一部抜粋）

1. 調べたきっかけ
姉が大学生だから大学生のことをしりたかった
2. 調べ方
姉が大学生だから姉市にアンケートをしてき
く、大学において正解なことを書く。
インターネットで調べる。インターネットで調べて
ほかの人の意見を見る。
3. 調べたこと
大学生がやりやすいバイトは

2020 年の意見文と
2021 年の意見文を比
べると、今年度の実
践は、自分だけの目
線ではなく社会全体
のことを考え、より自
分事として多角的な
視点で意見を書くこ
とができている。

2021 年に選ばれた意見文（一部抜粋）

ぼくは、湖西市を過ごしやすい町にするために大学生が静かに勉強できる場所があることを PR するとよいと考える。

この間、姉に大学生の勉強のしかたについて話を聞いた。姉は家で集中して勉強しようとしても机の上にあるスマートフォンやゲーム機器が邪魔をして集中できないことがあると言っていた。自分の部屋は自分が使いたいようになっていると思う。だから、勉強するときは図書館のような静かに勉強できる場所へ行ったほうがよいと考える。

(2) 課題

- ・国語科の授業の中でシティズンシップ教育を行ったが、教科でつけない力とシティズンシップ教育でつけない力とのバランスを考えることが難しい場面があった。
- ・インターネットで調べた情報が正しいかどうかや情報の取り扱いについてなど、メディアリテラシーを育てる必要がある。

5 資料等

○ 報告文

4. まとめ
湖西市はお年寄りにとって街の中にあるスロープや手すりなどが過ごしやすい工夫だと分かった。しかし狭い場所があるところには工夫が必要だ。私は、道路や出入り口が狭いところなどは、お年寄りが体を動かすにくく、介護する人も介護しにくいと思う。だから道路や出入り口が狭い場所は広くするべきだと考える。

4. まとめ
湖西市では観光客が過ごしやすいように土地や水を使った観光をしていました。でもこれには市民が湖西市の良さを生かしていることや、とれる水が少ないうえ、課題があります。ぼくは湖西市の小学校や中学校に湖西市の観光の魅力をわたせば、その中学生が大人になったときに他の人へそのことを話してくれればいいと思います。それがきっと湖西市の良さが広がっていくと思います。

○ 児童が話し合い、代表として選んだ意見文（一部）

- ・湖西市にある歴史的な資料館や建造物をみんなに知ってもらいたい。
- ・外国人も利用しやすい公共施設にしてほしい。
- ・天竜浜名湖鉄道新所原駅を有人駅にしてほしい。
- ・きれいで歩きやすい道になるようにごみ箱を設置したほうがよい。
- ・公共施設のトイレはきれいにしたほうがよい。

◇ 2年間の研究をふり返って

この研究委員会の初回で、「シティズンシップ教育をしようと思うのではなく、今までの授業をシティズンシップ教育の視点で捉え直すといい」と聞いた。「地域を題材にする」「ICT 機器を活用する」「友だちと協働的に課題を解決する」「多角的な視点をもつ」という4つの観点で授業づくりを行うことで、社会の問題を自分事として捉え、自ら考え、判断し、行動する子どもの姿につながると実感できた。今回は国語科で授業実践を行ったが、どんな教科や領域でもこの観点で授業づくりを行えば、シティズンシップ教育になると考える。今後、この4つの観点をもとに他教科でも実践を続けていき、「シティズンシップ教育は難しく考えるものではない」ことを様々な場面で、多くの人に広めていきたい。

地球に生きる「環境を守るためにできること」

子どもたちがシティズンシップの視点をもつためには、自分たちが住む三島市には、誇れるものがあることを実感することが大切だと考えました。そこで、子どもたちにとって身近な環境である「中郷温水池」と「源兵衛川」を、理科の授業の中で扱うことにしました。身近な自然の素晴らしさを科学的に考える活動を通して、三島市に住む市民として、これからも自然を大切にし、守っていかうとする態度を育てていきたいと考えました。

◇ 授業の具体

理科学習指導案

指導者 岩谷 佑紀（三島市立南小学校）

1 単元名 地球に生きる（8 時間）

2 単元目標

人のくらしと環境との関わりに興味をもち、人は空気や水などどのように関わり、どのような影響を及ぼしたり影響を受けたりしているか、そして、環境を保全するためにどのようなとりくみや工夫をしているかなどについて調べ、それらの結果を基に人が地球で暮らし続けるために自分たちにできることや、環境の大切さと生き物と環境との関わりについて考えることができるようになる。

3 実際の指導

時	主な学習活動	子どもたちの表れ
1 2 3	・温水池についてのイメージマップを作成しよう。 ・温水池について知っていることを発表しよう。 ・温水池について調べてみよう。 資料 1 温水池についてのイメージマップ①	・カモが 20 羽くらいいるよね。 ・公園で遊んだことがあるよ。 ・コイが泳いでいるよね。 ・昔はすごく汚かったらしいね。 ・よく餌をあげている人がいるよ。 ・南小学校のすぐ横にあるよね。 ・カワセミを見たことがあるよ
4 5	・温水池の生物を写真に撮って、食物連鎖の関係を調べよう。 資料 2 温水池の食物連鎖	・植物だけで、10 種類以上も写真が撮れたね。 ・木の葉をどかすと、ダンゴムシや名前のわからない虫がいるよ。 ・カモしかいないと思っていたけれど、カワウやダイサギなどもいることがわかったね。 ・思っていたより種類が多いね。少なくとも 30 種類は生物がいそうだね。

6 7	・温水池の水はきれいなのか調べてみよう。 資料3 水質調査キット 資料4 水質調査ワークシート	・pHを調べてみるとやっぱり中性だからきれいな水だと思うよ。 ・CODの値を見るときれいな水だということがわかるね。 ・水がきれいだから、きっと色々な生き物や人が集まるんだね。
8	・もう一度温水池についてまとめてみよう。 資料5 温水池についてのイメージマップ②	・今までは当たり前だと思っていた自然を多くの人が守っていたことがわかったね。 ・水は水質調査をしてもきれいだし、生物も100種類近くいることがわかった。 ・今まではあって当たり前の場所だったけれど、すごく価値のある場所だとわかった。
9 10	・環境問題について自分たちができることを考えよう。 資料6 自分たちにできること	・ゴミ拾いや物を大切に使うことなど、自分たちにできることをしていきたいね。 ・プラスチックや温暖化など問題は多くあるけれど、何かできることを探していきたいね。

単元の導入として、温水池について知っていることのイメージマップを作成する活動を行った。温水池は、学校のすぐ横にある非常に身近な場所だが、温水池についてあまり詳しくは知らない様子だった。そのため、温水池について自分たちで調べたり、企業や市民ボランティアの活動を紹介したりしながら、学習をすすめることにした。

第4・5時は実際に温水池に行き、多くの生物を観察した。1人1台タブレット端末があるため、写真を撮ることが簡単にできた。そのため、子どもたちは大変意欲的に学習にとりこんでいた。また、「最低10種類の生物を見つける」という課題を出したが、自分たちが考えていた以上に多くの生物が見つかり、その多様さに大変驚く様子が見られた。

第6・7時では、子どもたちは、水質について、簡易キットを用いて調査した。温水池や源兵衛川を調査したところ、水質はかなりきれいだということがわかり、喜んでいる様子が見られた。子どもたちは、昔源兵衛川がドブ川であったことを学習している。そのため、改めて、市民活動や企業の協力で三島市の環境が守られていることを確認できた。

様々な角度から温水池について学習した後は、単元の導入で行ったイメージマップをもう一度書いて、温水池についてわかっていることをまとめた。多くの子どもが、単元の導入よりイメージマップが広がった。また、「人が守っている」「企業の協力」など、最初は出てこなかった言葉も見られた。

単元のまとめでは、地球全体で問題になっている環境問題について調べ、それに対して、自分たちができることを考え、レポートにまとめた。これまでの学習から、環境問題について自分たちにもできることがあるはずだと感じる子どもたちが多く、「自分事」として学習にとりくむ様子が見られた。

4 授業の成果と課題

(1) 成果

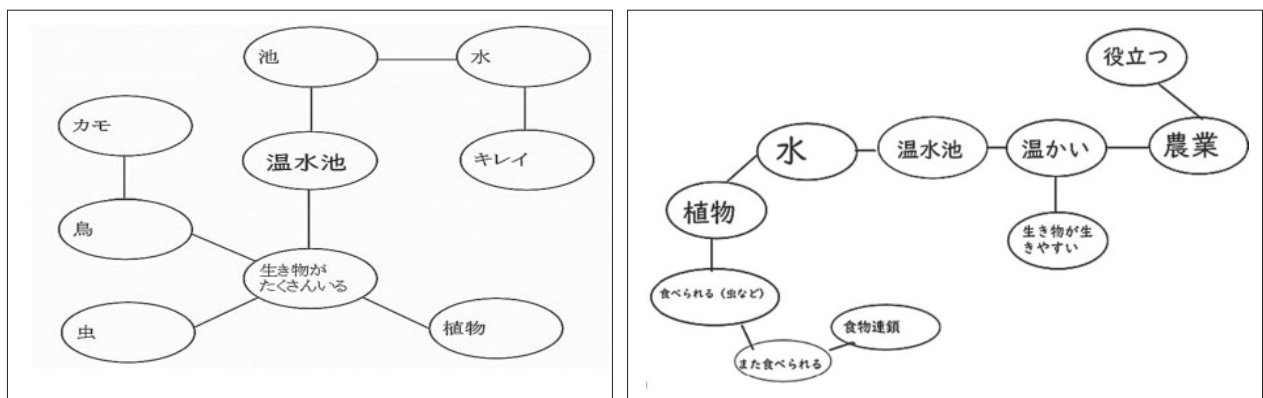
- ・子どもたちにとって身近な中郷温水池を教材として扱ったため、環境について自分事として捉えることができた。
- ・身近な環境を理科の視点から調べたことで、自分たちの周りの環境は非常に恵まれていることを実感できた。
- ・当たり前のように思っていた自然環境が、実は多くの市民の働きにより保たれていることを学習したことで、自分たちも環境保全のためにできることをしたいという態度を育てることができた。

(2) 課題

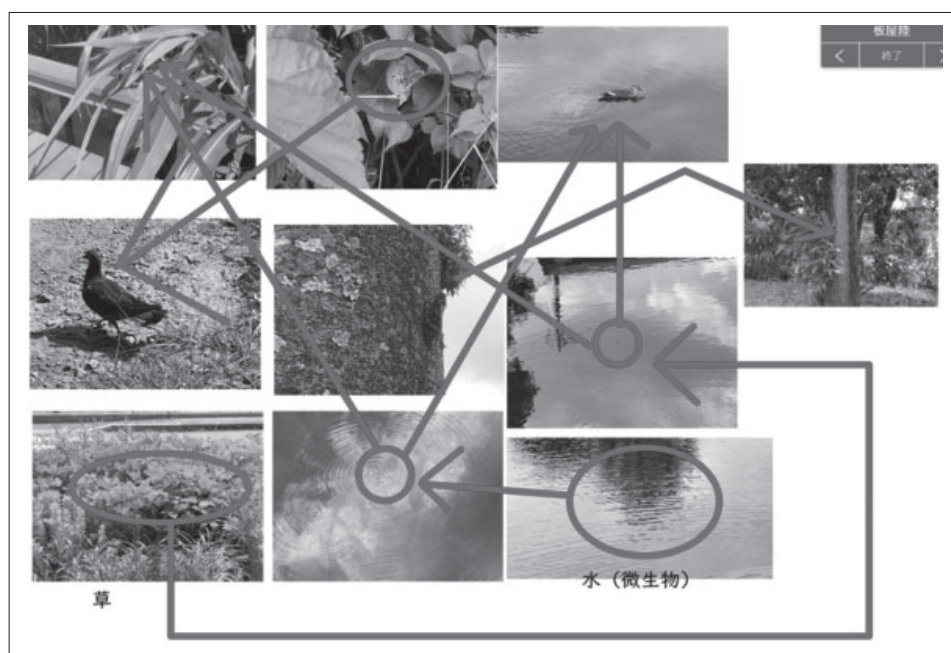
- ・外部機関の方や、実際に環境保全活動に携わっている方と交流できる場を増やしていきたい。
- ・市民として、今の自分たちにできることを考えることはできたが、実際に活動する時間を設定できなかった。そのため、実際に活動計画を立て、実践するところまで活動させたい。

5 資料等

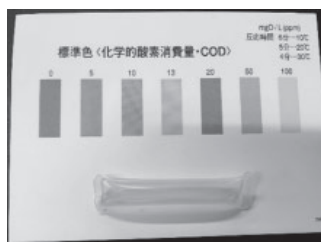
資料1 温水池についてのイメージマップ①



資料2 温水池の食物連鎖



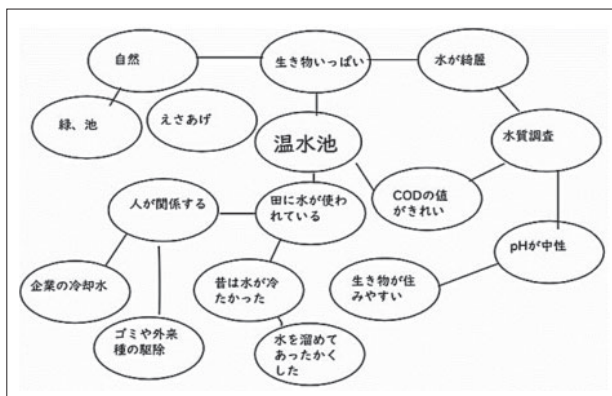
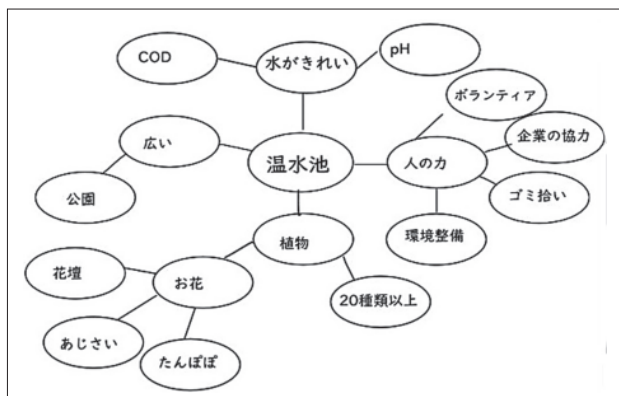
資料3 水質調査キット



資料4 水質調査ワークシート

目的 源兵川と温水池の水がきれいかを調べる。						
動機 三島は水の町と言われているが身近な川である源兵川や温水池の水はきれいなのか疑問に思ったため。						
方法 薬品を用いて水の状態を調査する。						
場所	源兵川	温水池				
調べた項目						
COD						
pH						

資料5 温水池についてのイメージマップ②



資料6 自分たちにできること

環境問題についてのレポート

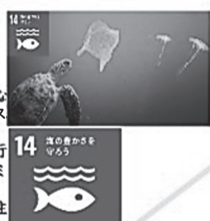
テーマ プラスチックゴミから、動物、生き物を守ろう

原因

私たちの生活において、プラスチックはなくてはならない存在です。身近なところでは、ペットボトルやビニール袋などに使われています。プラスチックは手軽に使えて便利ですが、ポイ捨てや不適切な処分仕方により、こうしたゴミは風に飛ばされたり、川などに流され、やがて海に行き着きます。そして、海に飛ばされたゴミを、えさと間違えた魚やウミガメ、場合によってはクジラまでもプラスチックゴミをえさと間違え、食べてしまいます。こうしたのを続けていると、海は汚くなり、海に住む生き物も居場所がなくなり、いなくなってしまいます。

自分たちにできること

- 出かける時
 - ・スーパーマーケットなどの所に行く時は、マイバックを持参する。
 - ・ポイ捨てはしないようにする。
 - ・海などに落ちているゴミを少しでも、多く拾う。
- 植物を植える
 - ・ヒートアイランド現象を緩和するために、植物を植えて緑を増やす。



自分たちにできること

エネルギー問題を解決するには、一人一人がエネルギーのあり方を考える必要があります。個人のとりくみでは、日常生活における省エネや太陽光発電システムの導入などが挙げられます。また、再生可能エネルギー利用率の高い新電力会社を利用することも、エネルギー問題への対策となります。エネルギー問題への理解を深め、ぜひ企業や個人ができる環境へのとりくみをすすめて行くことが大切だと思います。

◇ 2年間の研究をふり返って

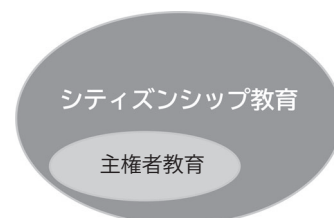
研究に携わる前は、「シティズンシップ」という言葉を聞いたことがなかった。最初は特別なことをしなければならないのかと不安に思うことがあったが、元々行っていた教育活動を「シティズンシップ」の視点で見直してみると、実はシティズンシップ教育につながる活動が多くあるとわかった。今回は主に理科の環境教育と関連づけながら、自分の住んでいる三島市の素晴らしさやそれを守っている人たちに焦点を当てて学習をしてきた。これからも、理科の授業を通して、自分の住んでいる街が好きになり、その街をもっと良くしたいという思いを育てていきたい。

2年間の研究をふり返って

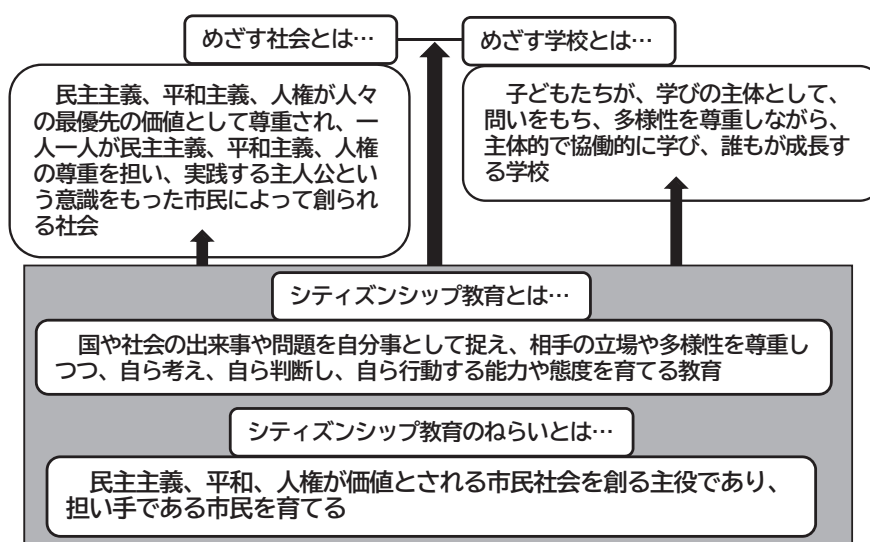
1 「シティズンシップ教育研究委員会」の押さえと研究内容

教育研究所では、2015年からシティズンシップ教育の研究をすすめ、2018年には「シティズンシップ教育研究委員会」を立ち上げ、研究実践を重ねてきました。

2015年に公職選挙法が改正され、18歳からの選挙権行使という制度変更により、主権者教育が有権者教育に特化されたり、投票を促すための教育というように矮小化されたりしてはならないという見解に立ち、平和な民主主義社会を生きる市民としての民主的人格をどう育てるかという教育が大事であると考え、主権者教育ではなく、「シティズンシップ教育」としました。両者の関係性は、右の図のように考えます。



シティズンシップ教育とは何か、シティズンシップ教育のねらいは何かについては、研究委員会内での議論、関係する研究会への参加、専門家の講話等を通して下記のように押さえ、様々な教科や領域においてシティズンシップ教育の授業実践にとりくみました。



2 実践と考察

7人の所員による2年間の授業実践は次のとおりです。

・国語…2本

国語科の学習を通して、誰に何を伝えるのかの目的意識をもち、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることをねらいとした授業を展開しました。相手意識をもって自分の思いや考えを伝えるために、「表現する力の育成」をねらいとした実践でした。

住んでいる地域の問題に対して実際に市へ意見文を提出する実践では、「自分に何ができるか」「どのように自分の意見を伝えるか」を子どもたち自身が考える活動を通して、子どもたちに市民としての自覚が芽生えていました。

・生活…1本

『まちをたんけんしよう』の活動を通して、生活の中にある事象が、「自分にとって」「みんな（友だち・家族・地域の人）にとって」大きくかかわっていることに気づき、自分事・みんな事を感じることができた実践でした。低学年の2年生であっても、子どもたちなりに社会の中で生きる自分を意識している姿が見られました。

・理科… 1本

理科の授業を通して、環境教育に視点をあて、生まれ育った地域の素晴らしさを改めて、子どもたちが実感し、市民としての自覚を養っていく実践でした。子どもたちは、身近な中郷温水池と源兵衛川を題材に、タブレット端末を活用し、川や水の美しい環境を守るためにどんなことが出来るかを意欲的に調べ、考える姿が見られました。

・学級活動… 1本

外国にルーツをもつ子どもたちが多数在籍している学校の現状を踏まえ、「多様性」をテーマに自分の地域や学校・学級の状況や問題から、自分たちの生活をより良くしていくために何ができるのかを考え、市民としての意識を育てていく実践でした。

・道徳… 1本

「聲の形」を題材にコミュニケーションについて考えることや、手話の学習、肢体不自由な方との交流を通して、福祉教育におけるシティズンシップ教育を視点に、世の中の人々の多様性を考え、自ら思考し行動する「行動力」を養っていく実践でした。

・総合的な学習の時間… 1本

「地域の魅力を発信しよう」をテーマに、子どもたち自身で御殿場の魅力に関する情報を集め、CMを作成していく過程で、地域のことを自分事として捉える様子が見られた実践でした。

・社会科… 1本

社会科の政治、地域社会の学習から、市がとり上げている「地域施設の再生化・活性化」の問題について、子どもたちが市民の1人であると自覚したとりくみが、地域にも認められ、大きな成果につながった実践でした。

3 実践研究を通して見えてきたこと

(1) 様々な教科・領域でのシティズンシップ教育を通して育てたい子どもとは

① 問い続ける子ども

自己の問いをもつことが、子どもの充実した学びの出発点であり、問いをもち続けることが、自己実現につながる。

② 多様性を尊重する子ども

様々な事象を幅広く、多面的・多角的に見て考えることができ、多様性を理解し、尊重することによって視野を広げ自らの問いにアプローチする。

③ 他者と関わりながら共に成長する子ども

私たちがめざす社会は、一人の力でできるものではなく、子どもたちが多くの人たちと関わり、話し合い、問題解決にとりくみ成長していく。

(2) シティズンシップ教育を通して子どもたちを育てる

子どもたちが生きている、そしてこれから生きる社会は、今までには考えられないような、様々な問題が複雑に絡み合う厳しい時代です。子どもたちは、その新たな時代を生きていく市民としての資質や能力、態度を身につけなくてはなりません。シティズンシップ教育は、その一翼を担っています。

学校に ICT 機器が導入され、今回は、タブレット端末を活用した実践が多くみられました。2022 年 4 月 1 日から「民法の一部を改正する法律」が施行され、成年年齢を 18 歳に引き下げられます。これにより、小中学校にまた新たな視点によるシティズンシップ教育が求められます。

シティズンシップ教育研究委員会（2020～2021年度）

共同研究者

井柳 美紀（静岡大学 教授） 2020～2021

三浦 哲司（名古屋市立大学 准教授） 2020～2021

所 員

高橋 雄太（浜松教組） 2020～2021

水谷 仁直（田方支部） 2020～2021

岩谷 佑紀（三島支部） 2020～2021

杉山 弓月（駿東支部） 2020～2021

青谷 安芸（志太支部） 2020～2021

塩澤 耕平（小笠支部） 2020

（磐周支部） 2021

生熊 佳奈（湖西支部） 2020～2021

事務局

内田いづ美 2020～2021

佐野 友美 2020

福代 淳子 2021

野村 昌宏 2020

藪寄 哲郎 2021

社会・地域の出来事や課題を「自分事」として捉え、
自ら考え、判断し、行動する子どもを育てるために

～シティズンシップ教育実践集～

編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「シティズンシップ教育研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発行者／教育研究所運営委員長 赤池浩章

発行日／2022年2月



静岡県教育事業団体のサポート

～県内の児童・生徒，教職員，保護者の皆様に向けて～

『これで安心!!新1年生』

後援：静岡県PTA連絡協議会

「新1年生をもつ保護者の皆様のご不安・ご心配が，少しでも小さくなったらいいな。」

「入学する子どもさんと家の方が一緒になってうきうきしながら入学準備ができたらいいいな。」

「保護者と学校とが素敵につながるためのお役に立てたらいいな。」

こんな思いを込めて作成しました。

○保護者から届いたメッセージ○

この冊子で、自分ができていた事、やらなければいけない事がはっきりわかり、これから入学するにあたって不安がいっぱいでしたが、できる事からはじめようと思いました。まずは、「できるかな」を子どもと一緒にやってみようと思いました。とても具体的でわかりやすいので楽しみながらやってみようと思います。ずっと保存して時々読み返そうと思います。

(S市・Aさん)



『これで安心!!新1年生』への感想はこちらから

教育講演会



「教育講演会」は，静岡県下の教職員並びに教育関係者の皆様が知識と教養を高めるとともに，地域社会の文化の向上に寄与することを目的に，昭和50年から実施しています。毎年，10,000名を超える小・中・高・特別支援学校等の教職員・教育関係者の皆様にご聴講いただいております。

令和2年度は，新型コロナウイルス感染拡大のため縮小せざるを得ませんでした，例年各地区の運営委員会の企画のもと，県内25会場ほどで，二十数名の講師を招いて実施しています，令和3年度の講演にご期待ください。

静岡県教育事業団体



一般財団法人 静岡県教職員互助組合

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 2F TEL:054-254-3626
互助組合ホームページへは， [ごじょう丸](#) 検索



一般社団法人 静岡県出版文化会

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 3F TEL:054-255-4451
出文ホームページへは， [出文](#) 検索



株式会社 静岡教育出版社

静岡市駿河区曲金 5-5-38 TEL:054-281-8870
出版社ホームページへは， [静岡教育出版社](#) 検索



静岡県教職員生活協同組合

静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL:054-282-2140
教職員生活協同組合ホームページへは， [教職員生活協](#) 検索



静岡県学校生活協同組合連合会

静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL:054-282-2166
URL <http://www.kyousyokuin-seikyo.com/link/rengoukai/>



公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 4F
TEL:054-205-5130

地区を支える学校生活協同組合

賀茂地区学校生活協同組合 ☎0558-22-1115

田方地区学校生活協同組合 ☎0558-76-8224

東豆地区学校生活協同組合 ☎0557-37-8766

三島地区学校生活協同組合 ☎055-981-0521

静岡県駿沼学校生活協同組合 ☎055-921-0333

富士地区学校生活協同組合 ☎0545-35-7272

静岡地区学校生活協同組合 ☎054-257-0701

志太地区学校生活協同組合 ☎054-634-1166

榛原地区学校生活協同組合 ☎0548-22-1355

小笠地区学校生活協同組合 ☎0537-24-1617

磐田周智地区学校生活協同組合 ☎0538-35-1830

浜松市学校生活協同組合 ☎053-482-7241

<http://www.stu.jp/>



最後までお読みいただきありがとうございました。

この所報をお読みになったご意見・ご感想をお聞かせください。

皆さんからいただいたご意見・ご感想は、今後の研究活動や成果発信に生かします。

STU Institute of Educational Research
静岡県教職員組合立教育研究所

FAX: 054-255-5110